

# 令和6年度 新居浜市議会 市民との意見交換会

## 開催報告書



令和7年1月  
新居浜市議会

目 次

	ページ
市民との意見交換会の概要 .....	1
<記録>	
1月10日 市民福祉委員会 .....	2~22
1月14日 経済建設委員会 .....	23~39
1月24日 企画教育委員会 .....	40~55

## 新居浜市議会市民との意見交換会の概要

### 1 開催目的

市民との意見交換を通して市民の多様な意見を把握し、政策形成に反映させるため、市民（団体）との意見交換会を開催する。

### 2 開催結果

日 時 令和7年1月10日（金） 19時～20時40分

#### 市民福祉委員会

- ・参加団体 新居浜市医師会、健康長寿地域拠点且之上世話人、新居浜東高等学校生徒
- ・テーマ「健康寿命の延伸」
- ・開催場所 新居浜市医師会館

令和7年1月14日（火） 13時30分～15時

#### 経済建設委員会

- ・参加団体 新居浜市管工事業協同組合
- ・テーマ「上下水道の将来について」
- ・開催場所 新居浜市管工事業協同組合会館

令和7年1月24日（金） 17時～18時30分

#### 企画教育委員会

- ・参加団体 中学生
- ・テーマ「新居浜市の未来について中学生として思うこと、何が一番必要だと思うか」
- ・開催場所 新居浜市議会議場

# 市民福祉委員会

日時 令和7年1月10日（金） 19時～20時40分

場所 新居浜市医師会館

<テーマ 健康寿命の延伸 >

【司会】市民福祉委員長：黒田 真徳

【参加者】※敬称略

(市民福祉委員会)

- ・黒田 真徳（委員長）
- ・藤田 誠一（副委員長）
- ・伊藤 謙司
- ・篠原 茂
- ・小野 辰夫
- ・井谷 幸恵
- ・伊藤 嘉秀
- ・渡辺 高博
- ・加藤 昌延

(新居浜市医師会)

- ・加藤 正隆（会長）
- ・近藤 啓次（理事）

(健康長寿地域拠点旦之上)

- ・石原 直満（世話人）
- ・飯尾 久美子（世話人）
- ・石原 玲子

(新居浜東高等学校)

- ・池田 絢音（3年）
- ・矢野 京楓（3年）
- ・友永 啓太（2年）
- ・山川 拓海（2年）

## 記録

### ●黒田議員＜委員長趣旨説明＞

それでは、ただいまから、新居浜市議会、市民との意見交換会を行わせていただく。

新居浜市医師会、健康長寿地域拠点且之上、新居浜東高等学校の皆様にはお忙しい中お集まりいただいたこと、また、平素から新居浜市議会の活動に対して、ご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本日の意見交換会だが、新居浜市議会では、平成25年度から毎年、市民との意見交換会を行っており、一昨年度までは、市内の各団体の皆様にお集まりいただき、個別のテーマについて意見交換を行い、出されたご意見やご要望を議会活動や議員活動に生かすべく取り組んできた。

昨年度から、その趣向を少し変えて、我々市議会が各団体の皆様のところへ出向かせていただき、意見交換を行い、出された意見、要望については、委員会で検討を行い、提言という形で市のほうへ提出させていただきたいと考えている。

次に、本日の会議の流れについて説明させていただきます。

本日の意見交換会は、テーマを健康寿命の延伸として、市議会市民福祉委員会と新居浜市医師会、健康長寿地域拠点且之上、新居浜東高等学校とで意見交換を行おうとするものである。

まず私から、本日のテーマを選んだ趣旨について説明させていただき、続いて、新居浜市医師会、健康長寿地域拠点且之上、新居浜東高等学校の皆様方から、現状や課題、要望等について話していただく。

その後、お話いただいた内容について、意見を交換しながら議論を掘り下げ、今後の

取り組むべき方向性を見いだしていくという形で進めたいと考えている。時間は1時間30分程度を予定しているが、若干延長することもあるため、よろしくお願ひしたい。

それでは初めに、今回のテーマを選んだ趣旨についてである。

今年は2025年問題と言われる団塊の世代全員が75歳以上の後期高齢者となり、医療や介護などの社会保障費の増大が懸念される年となる。人生100年時代と言われる中、高齢になっても元気で生き生きと暮らせるよう、健康上の問題がなく、日常生活を送れる健康寿命を延伸し、平均寿命に近づける必要がある。今後、新居浜市においても、市民一人一人の意識の高まりに合わせて、社会の環境改善を積み重ね、地域を挙げた総合力で健康寿命を伸ばしていきたいと考えるため、今回のテーマを決定させていただいた。

どうか皆様には忌憚のない意見を賜るよう、お願ひしたい。

それではまず、新居浜市医師会から医療分野における現状、意見、要望等について、お話を聞かせていただきたい。



### ○加藤会長（新居浜市医師会）

それでは資料を使って説明させていただきます。

まず、私と今日出席している近藤先生は、

新居浜市の健康づくり推進協議会の委員をさせていただいており、昨年からの第3次元気プランには21の協議に加わらせていただいている中で、新居浜市の健康を取り巻く現状の資料を使わせていただきながら、新居浜市の現状を説明した後、課題を抽出した上で、新居浜市への要望をさせていただきたいと思うので、よろしくお願いする。

まず、先ほど黒田委員長から話があったように、まさに2025年問題であり、団塊の世代がみんな75歳以上になるということで、全国的な問題ではあるが、新居浜市も75歳以上の男女が昨年1月1日の時点で18.8%と、20%近くになってきているわけである。

平均寿命の資料が出ているが、残念ながら新居浜市は、国、愛媛県の水準よりも低いレベルに甘んじている状態である。男性が2023年に県と同じレベルまではきているが、それを除けば少し低いレベルで甘んじており、さらに健康寿命についても、男性が愛媛県のレベルに近づいてはきているが、残念ながらまだ国のレベル、県のレベルにも達していない状況である。

この健康寿命が伸びない理由として、2023年の介護が必要になった原因疾患のデータを見てみると、圧倒的に多いのが脳血管疾患であった。そして、がん、糖尿病に続いて、パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの変性疾患、認知症等が続いている。

そして、死因別の死亡割合の統計であるが、こちらは、がんが一番多く、それから心疾患、老衰、肺炎や脳血管疾患と続いている。

また、死因別標準化死亡比というデータ

もあり、これは年齢構成の差異を基準の死亡率で調整した値に対する実際の死亡数の比というものだが、これで見えていくと心疾患は男女ともに新居浜市は非常に高くなっている。そして、肺がんも男女ともに高く、胃がんは男性が高く、肝がんは女性が高い状態であった。

これらの疾患の原因を見ていくと、どうしても避けては通れない問題として感じているが、喫煙がこれらの疾患に非常に大きく影響している。

実際に、ランセットという世界的に非常に有名で権威のある医療系の雑誌があり、こちらに載った少し前のデータでは、非感染性疾患、感染症を除いて、日本人の死因として多いものの一番が実は喫煙であるということ。2番目が高血圧で、運動不足や高血糖、高血圧につながる食塩の摂取、飲酒。ヘリコクターピロリ感染は胃がんにつながる。LDLコレステロール、C型肝炎やB型肝炎もあるが、これは肝がんにつながる。また、多価不飽和脂肪酸の低摂取は動脈硬化につながり、脳卒中や心疾患につながる。過体重や肥満も同じである。これらのものが非常に大きな原因であることが示された。

そして、これらが示されているにもかかわらず非常に残念なことに、新居浜市では、子宮頸がんを除いたがん検診の受診率が、特にコロナ禍になって非常に低下してきていることが分かった。

また、検診についても、市も頑張ってくれているが、受診者の結果を見てみると、血圧やLDLコレステロールに関しては、受診勧奨率が非常に高くなってきている。

HbA1cの異常、これは糖尿病のマー

カーになるわけだが、こちらは受診勧奨率が低いようであるけども、これはもしかすると糖尿病の方の多くはすでに受診をされていて、検診を受けていないということもあるかもしれない。実際に、特定健診の受診率は、必ずしも上がっておらず、市の目標として、2024年の目標を60%に掲げていたが、2023年では36.3%しか受診できていないという現状であった。

そして、これは少しショッキングなデータである。COPDについて、皆様は、もうすでにご存知なのであろうか。高校生の皆さんは聞いたことがあるのかな。全く聞いたことがないのかな。実は、新居浜市民で知っている人の割合が19.3%という非常に低い値になっていた。COPDという聞き慣れない言葉であるが、ぜひ覚えて帰っていただきたい。百聞は一見にしかずということで、ビデオで見ていただく。

これはオーストラリアのビデオである。たばこを吸い込むと、たばこが肺の中に入っていく、肺が壊れていっている。まさにこれがCOPDで、昔は肺気腫や慢性気管支炎と言っていた病名が、COPDということで統一された。

健康な肺は、左側のようなピンクの肺である。非常に細かい肺胞がたくさんあるのだが、たばこを吸い続けると、ヤニで真っ黒になっている。それだけじゃなくて、肺胞が壊れて、風船のようになってしまっている。それから、気管支も狭くなって、息を吸ってもうまく吐き出せない、そのような状態になってしまう病気である。

これが、今の世界の死因の第3位である。日本ではまだ第9位ぐらいであるが、これから徐々に死因の中心になっていく病気で

ある。

原因は、ほぼ確実に喫煙あるいは受動喫煙であるため、この病気を防ぐためにはもう禁煙しかない。しかし、残念ながらニコチン依存症は、非常に強い依存性があるので、自分の意思だけで治すのは困難である。だから、自分の意思で治療するという考え方を変えていただいて、イシはイシでも、ドクターのほうの医師のもとで、禁煙治療をするという考え方に変えていただく必要があると思う。お薬を使って身体的依存を解いて、心理的依存のくせのほうはカウンセリングで解いていくことが必要である。

このような話をすると高校生の皆さんは、まだ自分たちには関係ない話だというふうに思われるかもしれないが、実はそうではない。たばこ問題というのは10代の問題である。二十歳までに吸い始める方が90%で、大人になってから吸い始める人はほとんどいない。だからまさに、高校生、中学生の問題だということをぜひ気がついていただきたいと思う。

これは、たばこ会社の発言であり、不適切な発言かもしれないが、肺がんで死ぬ喫煙者の欠員補充だ、中学生ぐらいを狙えというふうに、たばこ会社の内部文書から分かっている。まさに、皆さんの兄弟やお子さん、お孫さんが狙われているということである。

これはよく見るコンビニのレジ周りの風景であるが、なんでレジ前の一番目立つところにたくさんたばこがあるのか。これは、たばこ会社がこの場所をしっかりと買っているわけである。このような目立つパッケージは青少年の興味を誘うための戦略であることをぜひ知っておいてほしいと思

う。また、禁煙しようとする人たちに禁煙させないための戦略であるということも知っておいてほしいと思う。

そして、喫煙だけではなく受動喫煙による病気も、喫煙によって起きる病気がほぼ全て起きると言っても過言ではないぐらいの知見がだんだん集まってきている。

この受動喫煙を防ぐために、世界禁煙デーあるいは世界禁煙デーからの1週間は禁煙週間と言っているが、イエローグリーンライトアップをして、受動喫煙防止を訴えようということ、実は新居浜市も一昨年、あかがねミュージアムや煙突山、新居浜市医師会館などでのライトアップを始めている。愛媛県では県庁や県医師会館も行っており、愛媛県だけではなく、東京スカイツリーや京都タワーなどでも行われている。ぜひ、このような試みをこれからも市議会の皆様とも一緒に続けさせていただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

さて、新居浜市の医療の課題などを話させていただいたが、少しまとめさせていただく。

今のとても大きな問題として、医療従事者の確保の問題がある。医師はどの科も足りない。看護師も足りない。そして、今いる医療従事者も非常に高齢化してきている。一つの例として、急患センターに執務している開業医や、あるいは外科在宅当番医をしている医師の平均年齢を出してみると、何と62歳であった。62歳というのは、市役所の方であれば、もう引退されている年齢だと思うが、引退された後の年齢が平均年齢になっているという状況であり、かなり高齢の先生方は、この当番からも外れているので、開業医の平均年齢はもっともっと

上になる。そのような高年齢になった医師会員が、一生懸命に今の医療を支えている現状だということをいま一度認識いただきたいと思う。

そして、新居浜市の新居浜医療圏の問題として、急性期医療の完結率が残念ながら低くなってきている。そのため、例えば松山医療圏へ救急搬送しなければ、治療ができないような病気もたくさんあるわけである。一つの原因としては、医師の働き方改革、あるいは専門医制度というものがあり、どうしても設備が整った病院でないと、専門医が集まらないというような問題もある。この辺も何とかしていかないと、新居浜医療圏に医師が集まりにくい。

そして、どの分野も非常に医療は逼迫しているが、特に精神科医療が逼迫している。医師も足りないわけだが、例えば非常に緊急性のある鬱病などによる自殺企図への緊急対策さえも今すぐに行にくいような状態になっているし、今の認知症の診療は、専門医だけでは回らないので、協力する医師で最初の医療をしているわけであるが、やはり専門医に診ていただかないといけないような方もたくさんいる。ところが、専門医診療の待ち時間が、数か月にもなってしまうというような現状もある。

そして、南海トラフ地震がこの30年で7、8割の確率で起こるということも言われており、数年前にも新居浜市でも豪雨災害があったが、豪雨災害がいつ起きても不思議でない状況であるため、災害時の医療確保が非常に大きな問題になっている。

そして、先ほどからたばこ関連疾患のことを話してきたが、このたばこ関連疾患が、平均寿命や健康寿命を短縮していることは

間違いなく、これに対しては、新居浜市として十分な取組ができていないという課題がある。

それらに対する新居浜市への要望として、まず喫緊の課題としては、非常に老朽化している急患センターの早期新築移転は是非ともお願いしたいと思う。発熱外来は、今もすでに非常に大変な状況であり、円滑にできるような急患センターが早く欲しいということと今の古い急患センターでは、災害が起きた場合にとっても対処できない状況であるため、喫緊の課題として是非ともお願いしたいと思っている。

次は、いつ起きるかもしれない災害対策である。これに対しては、例えば市と市医師会とで合同防災シミュレーションなどを実施することで、体制を強化し、連携を確認して、課題を明確化して、役割分担や通信手段の確認など、いろいろと考えられることがあると思うので、ぜひこれは実施をお願いできたらと思う。

そして、なんとといっても医療従事者が足りない。看護師も介護労働者も足りない。それに対して、どうすればいいのか。なかなか成り手がいないため、例えば外国人雇用の支援を市のほうにさせていただけないとか、看護学校の入学金の補助を行ってもらいたい。これは、四国中央市では始めており、四国中央市は市内在住の入学者に入学金の補助をしている。そのため、四国中央市からの学生が集まらなくなっている。もしかしたら、新居浜市の学生が四国中央市に移住して、四国中央市に通学している可能性もないとは言えない。

そして、このような入学金の補助だけでなく、実は看護学校への入学者が非常に

減っている。定員に対して3割台ぐらいしか入学希望者がいない。だから、進学への補助といったこともお願いできたらと思っている。

新居浜市には、高校を卒業して進む場所がなかなかないのが、現状である。高専あるいは専門学校へ行くしか進学の道がないため、進学の道が広がるような対策をぜひお願いしたいと思う。

そして、子育て中の医療従事者が、夜間とか休日に働きたくても、夜間、休日に子供さんが病気になった場合に、病児保育してくれるところが今の新居浜にはない。平日の昼間はあるのだが、あってもすぐにいっぱいになってなかなか預けにくい。ましてや夜間、休日はない。人口が11万人もいる新居浜市に全くないというのは非常に寂しい状況である。実際に困っているという話を聞くので、ぜひとも市のほうで作っていただきたいと思う。

それから、本日何度も出てきたが、たばこ関連疾患に関しては、市のほうもほぼなっているとは思いますが、市関連施設の例外なき敷地内禁煙と喫煙所を作らないでいただきたい。喫煙所を作るということは、喫煙をしてもいいというお墨付きになるので、今ある喫煙所はすぐに廃止をお願いしたいと思う。また、新居浜市というか愛媛県全体がそうであるが、非常に問題なのが、飲食店で受動喫煙を受ける方がたくさんいる。特に子供さんたちも行くところなので、この対策をぜひともお願いしたい。国の受動喫煙防止対策は改正健康増進法で少し進んだわけであるが、進んでいなかったのが飲食店である。既存店などはずっと喫煙可になっているが、東京都は少し違う条例をつくり、従

業員を雇っている場合は、原則禁煙にした。これは非常に有効な対策であった。1人でも従業員を雇っていると、従業員が受動喫煙を浴びないように、禁煙にしなければならないという条例を作ったわけである。これにより、かなりの飲食店が完全禁煙になった。このような条例は非常に参考になると思うので、議員の皆様にも知っていただきたいと思う。

そして、今日のNHKニュースでも出ていたと思うが、全国的に問題になっている高齢者による軽症での救急車要請が多くなってきている。これはなぜかという、足がないわけである。タクシーを呼ぼうと思っても時間帯によってタクシーも来てくれない。そうなってくると高齢者の方は救急車を呼ぶしかない。高齢者の方に問題があるというよりは、公共交通がうまく機能していないということに問題があると思う。この救急要請が増えてしまうと本当に必要な方に対して、救急車が出動できないという問題が起きてくる。そのため、高齢者の方が緊急受診しなければいけない場合の足を確保していただきたい。緊急性があるので、デマンドタクシーや通院バスでの解決は不可能である。そうなってくると考えられるのがシェアライドではないかと考えている。ただ日本版シェアライドは、タクシー会社が、タクシーが空いている時間帯のみに使うようなシェアライドがほとんどになっているため、緊急対応はできない。海外の状況を見てみると、日本版ではなくて、いつでも使えるシェアライドが非常に普及してきている。そのような本格的なシェアライドの導入、あるいは海外では無人の自動運転タクシーなどもできてきている。そのような

ものまで必要な時代になってきているので、そのあたりの対策もぜひお願いしたいと思う。

それから、予防接種の充実である。今まさに発熱外来が逼迫しているが、予防接種を受けていただくと患者さんの重症化が防げる。ただ、残念ながら、予防接種の接種率は非常に低くなっている。例えば、新型コロナの状況であるが、どのくらい打たれているかというのは、調べられないので、メーカーさんからデータを出してもらった。ファイザーのコミナティという新型コロナワクチンの納入実績を見させてもらおうと、残念ながら日本は非常に低い状態になっている。なぜか。実は、個別案内をしている自治体は、結構高い実績になっている。資料の上のほうは、全て個別案内をしているところである。新居浜市は、残念ながら個別案内をしていないので、自分が受けられるかどうかもご存知ない方もたくさんいる。個別案内をすることで、接種率がかなり上がる可能性がある。新居浜市としても是非ともそのような対策をお願いできたらと思う。

それから、予防接種費用補助の拡大がなされてきたが、まだまだ非常に高いワクチンもある。来年には、国のほうで带状疱疹ワクチンにも補助が出るように決まったようであるが、まだ決まっていないものにRSウイルスのワクチンなどがある。そのようなものに関しても、医療補助の拡大を考えていただければ幸いである。

最後に、追加になるが眼科会から要望があり、視野障害の方に対する拡大読書器への補助があり、上限が19万8,000円になっているが、物価高騰により、実勢価格が上限をはるかに上回っているそうである。すで

に眼科会からは国会陳情もしているようではあるのだが、市町村マターということで、対策が止まっているようである。1人当たり10万円ほどの上乗せをしていただくと普及もかなり進むため、進んでいないこの問題に関しても、できれば新居浜市発で、県内、国内へ拡大していただければありがたいという要望を承っているので、紹介させていただきます。



●黒田議員（委員長）

それでは、続いて健康長寿地域拠点且の上の世話人の石原さん、よろしくお願ひする。

○石原世話人（健康長寿地域拠点且之上）

初めに、新居浜市の健康長寿地域拠点づくり事業について、簡単に紹介させていただいた後、且之上の拠点の活動の紹介をする。

新居浜市の高齢者は、資料のようになっており、高齢化率は3人に1人、要介護者は高齢者人口の5人に1人というふうになっている。

愛媛県の平均寿命と健康寿命の差は、男性が約9年、女性が約12年となっている。この差が、健康的に自立した生活を過ごせない期間となっており、この健康寿命の差を縮めていくことが、PPK体操の一つの狙いである。

包括支援センターのデータは、介護、介助が必要になった主な原因は、高齢による衰弱、骨折・転倒、脳卒中、心臓病、関節の病気となっている。

健康長寿地域拠点づくり事業の目的は、地域に通いの場を作り、住民一人一人が介護予防に取り組み、介護サービスに頼らなくても、介護予防ができる地域づくりを目指すことである。2015年に拠点が立ち上がり、そのときは5拠点、103名であった。現在は112拠点、1,773名が、新居浜市内の自治会館112か所において、介護予防に取り組んでいる。

次に、且之上の健康長寿地域拠点であるが、名前をいきいき健康サロンと名づけており、2017年4月に開設した。登録者は、現在27名で、年齢構成は表のとおりであり、93歳の方が最高齢である。1回当たりの参加人数を年度別に書いているが、コロナ過においてかなり減少したが、今は次第に増加して、去年は21.5人となっていた。本日も、且之上の拠点は活動したのだが、この寒期中22名が来ていた。

健康状態がだんだんと低下して要介護状態になるわけであるが、健康な人と要介護の人との間がいわゆるフレイルと言われている。しかし、フレイルになっても、運動を行うことによって、健康状態に戻ることができる。ただ、フレイル予防については、運動だけではなくて、栄養や口腔ケア、社会参加、人とのつながりが大切であると言われている。

PPK体操の特徴は、セラバンドを使って体操を行うが、安全に全身の筋肉を鍛え、転倒予防や体力の向上、心肺機能の改善を目指すことができることである。

2023年6月から、筋肉図を利用したPPK体操を開始しているが、筋肉図を利用して、鍛える筋肉を意識することによって、筋肉が増加するということが言われていることから、このような取組を始めている。

現在取り組んでいる活動プログラムは、表のとおりであり、PPK体操とお手玉体操はDVDを見ながら実施している。その後、誤嚥防止運動と転倒予防の運動を独自に行っており、合わせて1時間30分程度の活動になる。

これから実際のPPK体操の取組をお話する。PPK体操を始める前に、筋肉が素早く動けるように、運動神経を目覚めさせる神経ビンビン体操、あるいはくねくね体操とも言われている体操を行っている。それを行った後からPPK体操を行うのだが、上半身の筋肉を鍛える運動は、この5種類で、これが上半身の筋肉図である。両手の伸び運動から開始する。お手元の資料をご覧ください。いただいたら分かると思うので参考にしてほしい。

両手の伸び運動は、大胸筋、菱形筋、僧帽筋を鍛える運動である。これらの筋力が弱ってくると、背中が丸まり姿勢が悪くなる。

下半身の筋肉を鍛える運動は6種類ある。加齢により、下半身の筋肉は上半身に比べて大きく低下するため、しっかりと鍛える必要がある。これが下半身の筋肉図である。

膝伸ばし運動である。膝伸ばし運動は、大腿四頭筋とハムストリングを鍛える。これらの筋肉は膝の曲げ伸ばしをする筋肉で歩いたり、走ったり、跳んだりするときに働くことになる。膝の痛みも軽減することができるし、歩行や立ち座り、階段の上り降りが楽になる。

次に、もも上げ運動である。もも上げ運動は、唯一、上半身と下半身をつなぐ筋肉である大腰筋と腸骨筋がある。腰椎から股関節を跨いで、大腿骨につながっている。腸骨も骨盤から股関節を跨いで、大腿骨につながっている。この2つの筋肉を合わせて腸腰筋と呼んでいる。腸腰筋の働きは、ももを持ち上げ、歩く、走る、階段を上るなどの日常動作で使われる。この筋肉が低下すると、足が上がりにくく、すり足になり、つまずいて転びやすくなる。人が立って動くために必要な筋肉であり、筋肉の大黒柱と言われている。この写真は、いただいた骨格標本を使って、もも上げ運動のやり方を説明しているところである。

スクワットは、重力に抗して体を持ち上げる下半身の筋肉を鍛える運動であり、踏み出し運動は下半身全体の筋肉を強化する。股関節の柔軟性を高め、体のバランスがよくなり、転びにくくなる。

次に、少し休憩してからお手玉体操を行う。認知症の予防が期待でき、このお手玉体操が終わると、5つの誤嚥防止運動を行う。その後、写真のように5つの転倒予防の運動を行っている。

毎年1回、地域包括支援センターと歩行能力レベルの判定を行っている。TUGと片足立ちテストにより転倒の危険性を調べている。TUGとは、タイムド・アップ・アンド・ゴー・テストの頭文字である。椅子に座って立ち上がり、3メートル先のペットボトルをぐるっと回って着席するまでの時間を測定する。片足立ちの時間が15秒未満であると、転倒の危険性があると言われている。また、片足立ちで多くの筋肉が鍛えられ、骨密度も改善されると言われているの

で、毎回最後には片足立ちを1分間実施して体操を終わることにしている。

握力は全身の筋力を表すものであると言われており、且之上拠点では握力計を購入し、測定を行っている。

高齢者の姿勢と衰えやすい筋肉は、このような状態になっており、姿勢を保持する抗重力筋にはこのような筋肉がある。このPPK体操というものは、高齢者の衰えやすい筋肉や姿勢を保持する抗重力筋を鍛えることで、姿勢がよくなることが期待できる。

PPK体操を始める前と後の体の変化について、アンケートを取ってみると、姿勢がよくなった、筋力がついた、歩きやすくなった、立ち座りや階段昇降が楽になった、転びにくくなったなど、日常生活が過ごしやすくなっている。

そのほか、包括支援センターから講師が派遣される介護予防講座がある。例えば、食育として食事と栄養バランスの講義やフレイル予防の講義がある。このような介護予防に関する知識を学んで、日頃の生活に生かすように努めているところである。

次に、お楽しみ会であるが、バスツアーと食事会を実施している。バスツアーでは、本谷温泉や小田深山溪谷の紅葉狩り、道の駅での買い物では初めてアイスクリームを食べたと言っていた方もいた。古岩屋の紅葉狩りでは、山道を40分歩いている。大島バラ公園、亀老山展望台もとてもきれいであった。

食事会は年2回実施している。これはひな祭りの食事会の様子である。ちらしずしだったかと思うが、本当にいろんなものを作っており、大根は自分たちが作ったもの

を持ってきてくれており、これだけ多くの人数で実施している。秋には、芋たきと栗ご飯で、自分たちで全部作っている。去年の1月12日で、PPK体操を始めて300回になったので、記念の祝賀会を行った。

趣味の講座も行っている。クラフトかごや藍染でスカーフを作った。藍染は、藍の葉からつくり、藍染のTシャツも作っている。これは、PPK体操時のユニフォームで、藍染の講師は、本日出席している飯尾久美子さんである。1月末には、マリーゴールドを使って、新たなTシャツのユニフォームを作ることにしている。これを作るのに2時間ぐらいかかるが、みんな立って、作っている。

次に、毎月1回いきいき健康だよりを発行し、健康情報やPPK体操の活動を、自治会の皆さんに回覧版でお知らせしている。今年の1月で第93号となっている。

拠点活動に参加してよかったことについてまとめると、無理なく安全に筋トレができたこと、みんなと交流できたこと、自分の健康を意識するようになり、家でも運動を始めたり、食事に気をつけたりするようになったことではないかと思っている。

且之上のいきいき健康サロンの目標は、自治会館に集えばみんなとつながり、楽しく元気になり、地域でともに生きる幸せを味わうことができる拠点づくりを目指したいと思っている。現在、347回開催したところであり、500回を目指して頑張りたいと思っている。

最後に市への要望である。

1つ目は、PPK体操のDVDについてであり、体操のときに童謡が流れるが、童謡の歌詞をテロップで流していただけると、

歌を歌いながら楽しくPPK体操に取り組めるのではないかと考えるので、ぜひテロップを入れるようにしていただきたいと思う。

2つ目は、地域福祉バスの利用についてである。高齢者のバスツアーの参加は、先ほど説明したように、いろんなどころに行き、本当に楽しく活動をしている。運動量も非常に豊富であり、道の駅などで買い物もする。そのような活動を通して、フレイル予防、認知症予防、介護予防の効果が期待できる。高齢者のバスツアーは、地域福祉バスの運行目的である地域の福祉の向上にかなうものであると考える。これからも地域福祉の向上の一環として、高齢者団体の地域福祉バス利用の継続をお願いしたいと思う。このようにお話しするのは、実はマイクロバスが1台故障しているということで、台数が減ったため、利用が難しくなっているという現状があることから、何とかしていただきたいと考えている。



●黒田議員（委員長）

続きまして、新居浜東高等学校の皆様から、スマホの使用が与える健康への影響などについて、お話を聞かせていただきたいと思う。

○池田さん（新居浜東高等学校3年生）

私たちの健康スポーツコースは、ほかの

クラスに比べて実践的にスポーツのことや健康のことについて学ぶことができるクラスである。今日は、スマホが健康にどのような影響を及ぼすかについて調べてきたので、その発表を行う。

○矢野さん（新居浜東高等学校3年生）

まず、3年生の2人で、スマホの普及によって、今の高校生にどのようなメリットやデメリットがあるのかについてまとめた。

最初に、調べ学習に取り組む時間が増えている。その理由として、以前は先生に分からないことを直接聞きに行かなければ分からないので、深く調べないこともあった。ただ、今は自分の手元で簡単に調べられるので、必要なときに学習に励むことができることは、とてもよいことだと思う。

次に、話題が増えたことである。Instagramを中心としたSNSの話を友人同士で交わすことがとても多くなった。今の高校生は、昔と比べてテレビをあまり見ないように思う。同級生同士での話題には困らないが、社会に出てからのジェネレーションギャップには少し不安を感じている。

次に、気軽に連絡がとり合えることである。遊びたい、話したいと思ったときに、すぐに連絡できることは便利に感じている。家に固定電話はあるが、今はほとんど使っていない。例えば、スマホがなかった昔の高校生は、恋愛をするにしても、直接家に電話をしなければならなかった。相手の保護者の方が出たら緊張してしまうと思う。

次に、スマホのアプリで学習ができることである。紙に書いて勉強することが嫌なわけではないが、効率的ではないと感じてしまう。スマホのアプリで勉強したほうが、はかどると思うこともある。また、SNSも

発展しているので、どこの国の言葉でも、スマホが1台あれば、勉強できることも魅力である。

最後に、世界の人とつながることができることである。スマホが1台あれば、チャットやビデオ通話、オンラインゲームなどで世界中の人とつながることができる。また、仕事や旅行などで情報を手に入れることもできるようになった。昔は、海外のことを知るには現地に行くしかなかったけれど、そうではない選択肢を取れるようになったことはとてもよいことだと思う。

○池田さん（新居浜東高等学校3年生）

次にデメリットである。

1つ目は、睡眠時間が減っている人が多いということが挙げられる。私の睡眠時間は4時間ぐらいになっており、少し不安を感じている。睡眠時間が減った反動として、授業中にとっても眠くなってしまう。小学生のときにはスマホを使っていなかったの、授業中は全然眠くならなかった。

2つ目は、外で遊ぶことが減ったということである。小学生ぐらいのときには、暇さえあれば外に遊びに行っていたけれど、今はスマホで時間を潰せることができるようになり、映画を見ようとしても映画館に行かなくなって、スマホで見ることもあるので、生活スタイル自体があまり外に出ないようになっている。

3つ目は、視力の低下が挙げられる。視力自体も下がり、近視になっている人もいる。私たちはそこまで視力が悪いわけではないが、長い時間使っていると、目がとても疲れてくるので、将来に目が悪くならないか心配である。

4つ目は、成績の低下である。スマホの使

用時間が増えると、偏差値が下がることが科学的にも解明されている。しかし、我慢できずに使ってしまう人もたくさんいる。

5つ目は、個人情報の流出の恐れがあることである。今は、SNSから自宅や今いる場所がすぐに特定されてしまう。今は、昔から住んでいる新居浜市で生活しやすいのだが、卒業後は、県外で一人暮らしをする予定なので、知らない土地で知らない人が見ていると思うと少し怖くなる。そのため、写真を撮る場所や周りに映る景色には気をつけていきたいと思っている。

最後に、いじめや事故に巻き込まれる可能性があるということである。SNSでの誹謗中傷は、昔では考えられないことであったが、匿名で自分の顔を出さずに発信できることで、他人のことを思いやれない人が増えたような気がする。私たちも書き込みを極力しないなど、巻き込まれない対策を個人で考えている。被害者にも加害者にもならない、情報モラルが必要だと感じている。

○友永さん（新居浜東高等学校2年生）

続いて、僕たち2年生は、クラスメイトへのアンケートを行いながら、高校生のリアルなスマホの使い方と現状についてまとめた。

まず初めに、スマホは高校生にとって必需品と書いているが、現在、電子決済などスマホは欠かせないものとなっている。

高校生とスマホの関係ということであるが、全国の高校生のスマホの所持率は、2021年度で96%にもなっている。右のグラフは、僕たちのクラスで、スマホを持ち始めた歳をアンケートにより可視化したものである。中学1年生から持つ人が多く、その次に小

学校6年生から持つ人が多くなっている。その背景には、3年生の発表にもあったように事故等に巻き込まれる可能性の危険などが影響していると考えられている。

○山川さん（新居浜東高等学校2年生）

次のページには、クラスのメンバーがスマホをどれくらいの時間使っているのか、どのようなことに使っているのかをまとめたものになる。クラスの普段のスマホ使用時間は、3時間、4時間が多くて、平均すると3時間使っている。そして、どのようなことに使っているのかというと、動画視聴や検索、インスタグラム、ライン、ゲームなどであった。

次に、スマホを使うときにルールはあるかというアンケートに対して、ある、ないは50%ずつであった。

そして、スマホの情報を信用しているかのアンケートについては、ほとんど信じているが半分いたので、これは少し危ないと自分は思っている。

そして、スマホを持ってから学習時間が減ったかのアンケートについては、減ったが半分以上なので、これも危ないと思う。

○友永さん（新居浜東高等学校2年生）

続いて、3年生とかぶる部分もあるが、高校生が考えるスマホのメリットとデメリットについてまとめた。

メリットとしては、暇を潰すことができる、自分の気になる新しいものを見つけることができる、自分の部活動に生かすことができるなどである。

デメリットとしては、先ほど3年生が説明してくれたとおり、危険がたくさんあること、身体への影響として視力の低下など、また自分もそうであるが夢中になりすぎて、

ほかのことを忘れてしまうことがあること、学力低下の可能性もある。

○山川さん（新居浜東高等学校2年生）

身体への影響については、SNSを見て疲れるかどうかは、全国的に80%以上の人

が疲れることが分かった。そして、なぜスマホを疲れてまでも触るのかというと、特にすることがないから、使う時間を減らしたいが減らせない、遊ぶ場所が少ないから、ゲームが好きだから、スマホで何でもできちゃうから、自転車で遠くに行くのが面倒くさいからなど、今の高校生たちはそう思っている。

○友永さん（新居浜東高等学校2年生）

次に、何があったらスマホを長時間触らなくなるのかと聞いてみたところ、スポーツができる施設をもっと増やしてほしい、新居浜にはイオンしかなくイオン以外にももっと楽しめるような場所がほしい、室内の遊び場が少ないのももう少し増やしてほしいなど、いろんな意見が出た。

資料に書いてあるような環境が新居浜市に整えば、結果的にスマホをさわらなくなって、子供たちが外で体を動かしながら健康的な生活に近づけるのではないかと、私たちは考えた。

この冬休みに僕は次の実験を行った。

スマホを冬休みにずっと触り続けていたので、就寝する1時間前にはスマホを触らない、1日のスマホ時間を2時間と設定し、スマホにアプリを入れて試してみた。すると、目の疲れもなくなったり、睡眠の質もよくなったり、またすぐ起きられるようになった。また、スマホを触っていた時間を自分の部活動や趣味の時間に当てることによって、気分もすっきりして、ストレスの軽減

にもつながったと感じている。



○山川さん（新居浜東高等学校2年生）

最後に、スマホに関する調査を行った結果として、スマホは高校生にとって欠かせないツールであり、健康への影響を意識し、適切に使うことが大事であると思う。そして、日々の行動を見直し、よい習慣を作ることが、今の高校生には大事だと考えている。

●黒田議員（委員長）

各団体の皆様、本当に詳しく分かりやすい内容でお話いただき、ありがたく思う。

それでは、ただいま説明していただいたことについて、委員の皆さんからご意見、ご質問があればお伺いしたいと思います。積極的な発言をお願いします。

●加藤議員

医師会さんからの説明の中で、がん検診や特定健診の受診率が低迷しているということがあったが、何が原因で受診が低迷していると思われるのか。コロナにより、受診ができなかったといったこともあるとは思いますが、どういった要因が考えられるのか。

○加藤会長（新居浜市医師会）

今回、受診率が下がっているのは、コロナの影響が一番大きいと思っている。しかし、その前から受診率はもともと低い。やはり、検診に対する受診のハードルが、まだまだ高いと思う。新居浜市が行っているがん検

診は、例えば大腸がん検診にしても、個別の医療機関では行えないような状況になってきている。集団健診のときに一緒に行くようなことになってきており、もっとできる機会を広げれば、受診率は上がるのではないかと思うので、ぜひ再検討をお願いできたらと思う。

●加藤議員

私の知り合いで30代前半の方も脳梗塞に2回になったということも聞いており、若い方の脳梗塞が増えている状況も懸念されていると思うが、若い方が脳梗塞になる原因には、どのようなものがあるのか。

○加藤会長（新居浜市医師会）

先ほども述べたように、喫煙が最大の原因だと思う。そして、なかなか自覚症状がない高血圧やLDLコレステロールの上昇などについて、若い方にあまり関心がないことが理由として挙げられると思う。このようなことをヘルスリテラシーというが、自分の健康に対して、関心がない方は日常生活習慣もかなり乱れてしまっており、動脈硬化が進んでしまっているが健診を受けないので、早期発見もできないということが問題になっていると思う。

●小野辰夫議員

COPDの肺について、10代の若いときからたばこを吸い始めるという説明があったが、たばこを吸って10年ぐらいすると肺がんになる確率も高くなると思うが、COPDを改善する方法はないのか。

○加藤会長（新居浜市医師会）

一旦壊れた肺は元に戻らないが、薬が進歩してきており、症状を緩和させることができるようになってきている。肺が弱ってしまうと体を動かさなくなってしまうし、

先ほどPPK体操でもあったが、体を動かさないと全身が弱ってしまう。まずは禁煙しないと肺はどんどん壊れていくので、たばこをやめて、治療をしていくことである。どんな人でも加齢により肺の機能は落ちてくるが、急に落ちてくるところを禁煙したり、薬物療法を行ったり、運動したりすることで、落ちてくるペースを落とすことはできる。ただ、壊れた肺を元に戻すことはできないため、壊さないことが一番であり、たばこに手をつけないことが一番である。

●井谷議員

精神科医療の逼迫ということで、認知症診断の待ち時間が数か月もかかるというようなお話があったが、これは新居浜が特に逼迫しているということなのか、それとも、どの自治体でも逼迫しているということなのか。

○近藤理事（新居浜市医師会）

都会においても有名などどころにかかるには、待ち時間が同じ程度かかっていると思う。ただ、新居浜には隣町からも患者さんが来られるので、松山圏よりは明らかに人口で比べると専門医の人数は少ないという状況である。現状、3名程度が専門医として活動をしているので、なかなか大変である。

●渡辺議員

平均寿命の比較の推移のところ、県や全国の平均と比べると新居浜市は下回っている。これは新居浜市特有の原因や、診療されている中で、こういうところを改善したら、県平均や全国平均に近づけるといようなことがあればお伺いしたい。

○加藤会長（新居浜市医師会）

寝たきりの原因が脳血管疾患やがんや糖尿病ということで、まずは動脈硬化を進行

させるような病気を起こさないように、血圧、血糖、脂質のコントロールをするようなことと運動することがとても大事であり、がんにならないためには、たばこに手をつけないこと、そして、リスクが高い方は特に健診をしっかり受けることが必要である。死亡原因についても同じようなことになってくると思うが、新居浜の人というよりも日本人全体ではあるが、これらの疾患が平均寿命、健康寿命の低下に大きく影響しているということをまずは理解していただいて、それに対する取組方法を個人個人が理解して関心を持って取り組んでいただく必要がある。

さらに第3次健康増進計画の中では、必ずしも関心が高くない方にもこのような状況を避けていただけるような取組ができないかと考えている。その辺は市のほうで考えていただいて、例えば、自然に運動ができるような環境づくりや、食品に関しても、例えば、塩分が少ない食事やカロリーがかなり抑えられた食事、繊維分が多いような食事などといったものを市が認定して、このようなものを食べていけば安心であるというようなものも作っていただけると、市民の方が自然にそのようなものを選ぶことにより、関心がそれほど高くない方も一緒に健康になれるようなことは考えられるのではないかと思う。今回の第3次の健康増進計画の中には、国の指針としても入ってきているので、市としても、より積極的に考えていただければありがたいと思う。

●伊藤嘉秀議員

看護師の確保が困難ということについてだが、人口減少になっているので、全体的にどの業界も新入社員を確保するのが難しい

ということはあるのだが、四国中央市には入学金の支援があるというのは、地元の専門学校に入学するときのことであるのか。また、大学に行かれる方もいると思うが、そういった方にも支援をされているのかということの一つ教えていただきたい。

また、今の高校生の皆さんが看護師になるろうとしたときに、専門学校を選ばなくなってきているのではないかと、私には少し意識がある。要するに、医療の高度化により、もう少し高度なものを身につけたいということで、県外へ出られる方が多くなっているのではないかなという感覚があるが、そのあたりを少し詳しく教えていただきたい。



○加藤会長（新居浜市医師会）

四国中央市の看護学校の入学金の支援については、四国中央医療福祉総合学院の看護学科や言語聴覚学科、作業療法学科、理学療法学科に入学する場合に、四国中央市に在住している方であれば入学金の補助があるということであり、県外の学校でもよいということではなく、この四国中央医療福祉総合学院だけとなる。

そして、看護学生の入学に関しては、今は4年制大学に看護科できたので、4年制大学に入学される方が増えてきているのは事実であり、専門学校の看護学校への入学は

非常に減ってきており、全国的な問題となっている。新居浜だけではないが、本当に厳しい状況で、入学定員の3割台ぐらいしか応募がないというような状況も出てきている。そうなってくると、学校自体の存続も難しくなってくる。新居浜の看護学校がなくなってしまうと、市内の高校生が進学する1つの可能性がなくなってしまうので、若い人が新居浜市に残らなくなり、ますます市の活気がなくなってしまう。やはりそのようなところに魅力を作っていただけるような施策を考えていただければありがたいと思う。

そして、看護師がこれ以上育たなくなってくると、新居浜の医療が回らなくなってしまうことも目に見えており、本当に深刻な問題であるので、ぜひともご支援をお願いできればありがたいと思う。

#### ●小野辰夫議員

推測の話にはなるが、現在看護師さんは、全国で120万人ぐらい在職していると思うが、西条高校が衛生看護科をなくして、西条中央病院が非常に弱っているという話を聞いたことがある。新居浜市医師会としては、准看護師よりも正看護師を勧めたいというお話を聞いたことがあるが、正看護師と准看護師の問題については、どのように考えているのか。

#### ○加藤会長（新居浜市医師会）

准看護師と正看護師はどちらも必要である。決して准看護師はいらないなどということ医師会は全く言っていない。准看護師も非常に大切で、同じ医療従事者として活躍していただいている。特に中小病院では、准看護師が活躍する場が非常に多いというように認識をしているので、今後とも、

医師会としては、准看護師の養成にも引き続き力を入れていくような動きになっている。

●伊藤謙司議員

友永君が行った実験で、スマホの利用時間を2時間以内にしたら調子がよくなった。そして、結論としては行動の見直しやよい習慣を作るとのことだが、私からしたら2時間も長いような気がする。実際にしてみても肌感としては、もう少し短くしたほうがいいかなという感じだったか。

○友永さん（新居浜東高等学校2年）

自分が触っている時間をiPhoneで見られるのだが、5時間とかすごい数字になってしまって、自分が始められるのは2時間かなと思ひ、とりあえず2時間ということを設定した。少しスマホ中毒気味なので、まだ触りたいという気持ちはあったが、自分はサッカーしているので、河川敷でボールを蹴ったりして、その気持ちを忘れることによって大分すっきりしたかなという感じである。

●伊藤謙司議員

視力の低下ということで、高校生のみんなの周りで眼鏡やコンタクトの人はどのぐらいいるのか。

○矢野さん（新居浜東高等学校3年）

コンタクトの場合は、裸眼かコンタクトをつけているのかはしっかり把握できないが、半分はいると思う。

●伊藤謙司議員

先生にお尋ねしたいのだが、視力については、やっぱりスマホが影響しているのか。

○近藤理事（新居浜市医師会）

私は精神科医なので依存については非常に詳しいのだが、眼科的なことはあまり分

からないが、明らかに悪いというようには言われてはいる。

●伊藤謙司議員

精神科の先生に聞くのもあれだが、スマホは目にも悪いし、体や精神的なところにも悪いということが出ているのか。

○近藤理事（新居浜市医師会）

高校生の方が言われていたとおりであり、高校生の方は非常によくご存知だと感じている。そして、明らかに脳に対して悪い影響がある。脳トレなどを作っている東北大学の川島先生がその辺りを研究されていて、11歳から18歳の方の頭の体積などを継続的にMRIで測っておられる。基本的に11歳から18歳は脳が大きくなっていく時期であるが、スマホを使っていると脳が大きくなならない、体積の増加が見られないというようなこともあるし、前頭葉の内側部の発育なども悪くなるというようなことも言われているので、スマホを長く使うとか使うこと自体があまりよくないということも言われている。また、お金持ちの方は使わないようにしているということも聞いたりしている。

○加藤会長（新居浜市医師会）

デジタル先進国の一つのスウェーデンでは、2016年から2021年にかけて、児童の読解力が低下しているという研究結果が出て、特に幼児の教育現場ではデジタル機器を使わないようにだんだんシフトしてきているということである。そして、先ほど近藤先生が言いかけたことであるが、例えば、シリコンバレーにあるスマホを作っているような企業の子弟が進学する学校では、スマホは使われていないなど、スマホを売っている立場だが、自分の子弟には使わせていない

などのような事実がある。

これは、たばこ少し似ていると思う。たばこは、人に売るけども絶対に自分では吸わないというのが、たばこ会社の考え方であるから、たばこもスマホも非常に強い依存性があることは間違いない。

●加藤議員

高校生にお尋ねしたいのだが、やはりスマホは欠かせないツールであり、情報収集や連絡を取るなど、なくてはならないもので、大人にとってもスマホがなくなると、どうしようとなるぐらいの大事なものになってしまっている。そして、スマホがいじめや事故に巻き込まれる可能性があるということが懸念されると思う。実際に高校生の皆さんの中で、SNSでトラブルになったとか、学校にちょっと行きにくくなったとか、そのような友達などは周りにいるのか。

○友永さん（新居浜東高等学校2年）

私は、中学生のときに巻き込まれてしまって警察に行く形になったことがある。自分は被害者になるが、自分のアカウントに成り済まされて、悪口を書かれて、啓太君が書いたろみたいなことを言われて、いろいろと大変なことになった。例えば、インスタグラムの質問箱では、匿名でできるので、そこで悪口を書いているような人がいたり、ちょっと精神がガーンと落ちて学校に来なくなっている人は、中学生のときに見かけたことがある。

●加藤議員

本当に使い方次第でそういうようなことになるっていうこと。また、オーストラリアではSNSを禁止にするということで話題になったと思うが、もし、この日本でSNSを使えなくするとなったらどう思うか。

○矢野さん（新居浜東高等学校3年）

すごく不便だと感じてしまう。いきなりSNSやスマホが使えなくなったら、逆にどうしたらいいのだろうということが多くなると思うので、困る気がする。



●加藤議員

多分困るということだと思うが、被害に遭う、遭わない、加害者にも被害者にもならないように、啓発活動など、気をつけるということをしなければならないと思う。

●篠原議員

石原さんのPPK体操のことで、筋肉を鍛える運動というのを聞いて、PPK体操はこんなこともやっているのかということ詳しく教えてもらって大変ありがたかったと思う。今年の1月5日の愛媛新聞の中の道標には、酒向正春先生が、95歳で非介護の社会をつくらうということを書いていた。どういうことを書いているのかというと、95歳でも介護状態にならない社会、働きたい人は80歳でも8割が働ける高齢化社会の実現であると。それにはどのようなことをしたらいいのかというと、筋肉革命だと言っており、そういうことをすることによって、非介護の状態で過ごせるというようなことを書いていた。そして、今日も石原さんに教えていただいたが、このような筋肉革命は一人ではできないと、一緒に頑張る

仲間が必要だというようなことを聞いたら、且之上自治会の皆さんがやっていることは、本当に先進地の事例だということがよく分かり、今後もPPK体操をみんなで進めていくように頑張りたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

○石原世話人（健康長寿地域拠点且之上）

地域包括支援センターが頑張っており、112拠点も作って、1,700人ぐらいに増えているので、これをみんなで増やすようにして、新居浜市の介護予防に努めたいと考えている。

●黒田議員（委員長）

引き続き、健康寿命の延伸について意見交換を行っていききたいと思うが、各団体からのお話の中で、市政への要望として、少し盛り込めていなかったことなどがあれば、教えていただきたいと思うが、地域団体の皆様、いかがか。

○飯尾世話人（健康長寿地域拠点且之上）

PPK体操の話ではなく、検診をどうやったら、みんなが受けられるかなという話になるが、私は去年に娘から自分の健康は自分でつくれると言われて、10年ぶりに検診を受けて、大腸がんみたいなものが見つかり生還したのだが、新居浜市から検診を受けてよ、365日分の1日だけ使ってよと言われても、なかなか皆さんは忙しい。どうでしょう、高校生の皆さん、お父さんやお母さんに、おじいちゃんやおばあちゃんに。テレビでもあったと思うが、自分の子供に言われると結構響く。また、先ほどの加藤先生の喫煙の話などは、大人はちょっと無理なところもあるような気がするので、中学生や高校生の方たちにそのような教育をしていただいて、そこから新居浜の健康寿命を伸

ばしていく、検診率を上げていくというふうにつなげていただきたいと思う。

私事になるが、検診を受けて、病院に行って、いろんなよい言葉を聞いた。食べたものだけで、体はできている。だから、ポテチを食べるのであればチーズを食べようとかということ。あと、お腹が空いている時間は、自分は今健康になっているって思えばいいのよという看護師さんの話など、そのようなよい言葉もいっぱい入ってくるので、医療機関にかかっているいい循環に入っていけるとよいと思う。

●黒田議員（委員長）

地域の皆様は本当に積極的に活動に取り組んでいただいていると思うが、参加メンバーの石原さんが取り組んでいる中で、市への要望なり、またほかの地域団体に向けてアドバイスなどがあれば教えていただきたい。

○石原さん（健康長寿地域拠点且之上）

且之上の活動は、丸8年が終わるのだが、最初の頃はPPK体操は年寄りがする体操だと思って馬鹿にして、行っていなかった。毎年、記念撮影をするときだけ行っていたのだが、2年前に行ったときに、80歳以上の方が本当に元気であった。そして、PPK体操に来ると、人との出会い、触れ合いでだんだん変わっていく。最初は誰とも話をしなかった人がすごく話をしだすことなどを知って、私も行かないといけないと思って、2年前から参加させていただいた。筋肉を意識して体操することで、本当に疲れるのだが、体の変化を体感していくことがうれしくて、私はPPK体操がきちんと広がっていけば、本当に健康長寿を実現できると思っている。あまり言わなかったが食事の

ことについても、表のようなものを配って、タンパク質はこれだけあって、タンパク質も大事だよということで、筋肉運動だけではなく食べるものとも合わせた指導が必要である。本当にトータルでいろんなことをして、この活動はすごいなと体感している。そして、みんなに会ったらPPK体操はよいので行ったらどうかとほかの人にも勧めている。今高校生の方が、いろんなことを言っていたけど、本当に高校時代から、食べたもので体ができているとか、運動や睡眠などの大事なことをきちんと生活習慣になるようにしていけば本当に健康寿命が上がると思う。本当に今日はよい機会を与えていただきありがたく思う。

●黒田議員（委員長）

最後に私から1点だけ提案をさせていただけたらと思うが、先ほどからお話のある健康診断受診率の向上について、医療関係の方ではなくて地域の皆様、また委員の皆様から、健康診断受診率の向上について、何かアイデア、ご意見等あれば、最後にお伺いさせていただきたい。

●篠原議員

特定健診の受診率が下がって行っているということだが、先日までは無料であった。しかし、皆さんもご存知のように新居浜市も大変お金が厳しい状態なので、少しお金をもらうというシステムに変えたら、やっぱり少し下がった。個人でお金を出すということはなかなか難しいが、少額のお金になるので、ぜひお金を出して、特定健診をして、早期発見が健康寿命の延伸につながるの、そのようなことを広めていきたいと思っている。

●小野辰夫議員

受診率アップに関しては、事務局の人から何度も勧奨の電話が入り、申し訳ないの、今回は受診するようになったということもあるため、反復が非常に必要なのではないかと思う。



○石原さん（健康長寿地域拠点且之上）

それによって、私は10年以上続いている。

●藤田議員（副委員長）

最後に高校生に聞きたいと思う。仕事柄、児童の保護者から、子供にスマホをいつから持たせたらいいのかなどを聞かれるのだが、学校でのスマホのルールはどうなっているのか、また家でも使わないなどといった自宅のルールを教えてください。

○矢野さん（新居浜東高等学校3年）

学校のルールとしては、学校内ではスマホを触ってはいけないというルールがあり、私は電源を切ってバックの中に入れている。家では、基本的なルールはなく、夜中にはできるだけ触らないようにしている。

●藤田議員（副委員長）

アドバイスするとしたら、自分に娘や息子ができたら、スマホをいつから使わせるのか。

○矢野さん（新居浜東高等学校3年）

私は、高校生からスマホを持ち始めた。小さいときにはできるだけ外で遊ばせたいの

で、中学校1年生ぐらいから持たせたいと思っている。

#### まとめ・閉会挨拶

##### ●黒田議員（委員長）

それでは、本日の会議でいただいたご意見、ご要望については、後日、委員会で協議を行い、市へ提言したいと考えている。ただ、市の財政は大変厳しい状況であることから、実現できるもの、実現できないものがあると思うが、状況が少しでも改善できるように取り組んでいきたいと考えている。本日は、各団体の皆様、貴重なご意見をいただき、厚くお礼申し上げます。

最後に、藤田副委員長より挨拶がある。

##### ●藤田議員（副委員長）

本日は新居浜市医師会様、健康長寿地域拠点且之上様、新居浜東高等学校の各団体の皆様並びに議員の皆様におかれては、長時間にわたったこと、また、各団体の皆様からは、数多くのご意見をいただき、厚く御礼申し上げます。本日、意見交換をさせていただく中で、新居浜市医師会の皆様からは、喫煙による健康への影響をはじめ、本市医療への要望、課題など、大変参考になった。そして、健康長寿地域拠点且之上の皆様からは、地域での活動状況をお聞きする中で、活動の場づくりの重要性を改めて再認識することができた。新居浜東高等学校の皆様からは、健康寿命の延伸という難しいテーマに関し、若者ならではの視点からの意見をお聞きできたこと、本当に参考になった。

先ほど委員長から話もあったが、本日皆様からいただいたご意見やご要望については、市へ提言するとともに、我々市議会議員の活動に生かし、市議会議員としての役割を果たしていく所存であるので、なお一層

のご理解とご協力、ご指導ご鞭撻をいただくようお願い申し上げます。本日の意見交換会について、各団体の皆様のご協力により無事に開催することができたこと、また、実りのある意見交換会になったことを改めて、お礼を申し上げ、終わりの挨拶とさせていただきます。

##### ●黒田議員（委員長）

以上で意見交換会を終了する。



日時 令和7年1月14日（火） 13時30分～15時

場所 新居浜市管工事業協同組合会館

<テーマ 上下水道の将来について>

【司会】経済建設委員長：越智 克範

【参加者】※敬称略

(経済建設委員会)

- ・越智 克範（委員長）
- ・河内 優子（副委員長）
- ・仙波 憲一
- ・大條 雅久
- ・高塚 広義
- ・神野 恭多
- ・伊藤 義男
- ・小野 志保

(新居浜市管工事業協同組合)

- ・田村 昭一（代表理事）
- ・近藤 孝之（副理事長）
- ・近藤 一太（副理事長）
- ・尾田 征司（理事）
- ・小泉 浩平（理事）
- ・一色 直幸（理事）
- ・渡辺 保（理事）
- ・秋山 茂（事務局長）
- ・中嶋竜之輔（青年部長）

## 記録

### ●越智議員＜委員長主旨説明＞

この意見交換会は市民の多様な意見を伺い、市の政策形成に反映させるために各種団体の皆様と意見交換を行うものである。令和6年度の経済建設委員会の意見交換会は、新居浜市管工事業協同組合様の協力を得て開催することとなった。

テーマは昨年に引き続き、持続可能なまちづくりを基本的な考え方として、上下水道の将来についてとする。管工事業協同組合が実施している上下水道は市民生活に重要なライフラインであり、その事業の現在の状況を課題に、将来への展望について議論したいと考えている。言うまでもなく、上下水道はまちづくりのための重要なインフラであるが、抱える課題は多く、その取り組みは市民の理解が必要である。昨年1月に発生した能登半島地震においては、広範囲の断水や上下水道の破断が発生し、市民の生活に大きな支障を来し、一層水の重要性が認識されたところである。

折しも新居浜市では、事業の持続性を確保するという観点から、PPP/PFIの手法を導入し、上下水道事業の抱える課題に取り組むための準備を始めたところで、官民連携のこの事業を進めるためには、市の考え方と民間事業者の考え方をすり合わせて、効率のよいかつ両者に多くの負担をかけないような仕組みづくりが必要と考える。

今回のこの機会を利用して、管工事業協同組合様との意見交換を実施し、議会としての取り組みについて検討したいと考えている。

なお、今回の意見交換会の進め方としては、1. 組合の事業の概要について、2.

災害等の対応について、3. ウォーターPPPの対応について、4. 上下水道事業の課題と要望についての4項目に分割して意見を交換したい。各項目とも組合からの説明をもとに、議論を掘り下げて、改善検討を要する提案事項を整理して、取りまとめを行いたい。各項目とも約20分ごとの区切りで行いたいと考えているので、皆さん、よろしく願います。

それではまず会を始めるに当たり、新居浜市管工事業協同組合の田村昭一代表理事から一言ご挨拶いただきたい。



### ○田村代表理事

当組合は、新居浜市の水道工事店32社を中心として、365日24時間の体制で、新居浜市民のライフラインを守るという役割を担うために組織されている。本日は、このような場を設けていただいたこと、大変ありがたく思う。この時間が有意義な時間になるよう、願います。

### ●越智議員（委員長）

出席者の自己紹介を行う。

<議員、団体参加者自己紹介>

#### 1. 組合の事業の概要について

### ●越智議員（委員長）

それでは、資料の確認を行う。1. 今回の説明資料、2. 建設業29業種のうち水道工事業者に関連する業種及び資格等

の表、3. 管工事業協同組合の概要をまとめたレジュメ、以上3つの資料を組合の皆様にご用意いただいた。メインとしては、最初に説明した資料をもとに行いたい。

まず、組合の事業概要について、秋山事務局長より説明いただく。

#### ○秋山事務局長

まず我々の組合について説明する。新居浜市管工事業協同組合は、昭和47年に設立された。地元の指定給水装置工事事業者で構成された水道工事業の集団で、現在32社が加入している。私たちの生活に欠かすことのできない水を安定して市民に供給できるよう、組合員が当番制で365日24時間、水道のトラブルに対応している。

次に、当組合が取り組んでいることのうちから3つ紹介する。

1. 資格者育成・技術者養成。近年、建設業界は慢性的な人材不足と高齢化が続いており、若年労働者が少ないことから、技能継承に支障が出るのが危惧されている。そういったこともあり、これまで組合員などに対して、給水装置工事主任技術者試験受験準備講習会、技能検定受験準備講習会、水道配水用ポリエチレン管施工講習会などを開催し、資格者育成に努めている。また、若者に少しでも水道の仕事に興味を持ってもらい、将来の担い手になって

ほしいという思いから、新居浜工業高等学校のインターンシップを積極的に受け入れたり、国家資格である3級配管技能士の受験を希望する新居浜工業高等学校の生徒を対象に受験準備講習会を行ったりしている。

2. PR活動。平成27年度より市内各校区の文化祭に参加し、組合のパンフレット、マグネットステッカー、水栓修理レンチセットなどの配布、具体的な蛇口の修理方法レクチャー、水道管の凍結防止と対処法の説明、水回り無料相談などを行っている。市民からは、蛇口の仕組みが分かってよかった、困ったときにどこに依頼すればよいか分からなかったので、名簿の配布は助かる、以前修理を頼んだら悪徳業者に引っかけたので、今後は地元の指定給水装置工事業者に依頼する、などの感想をいただいている。

3. 貢献活動。毎年6月1日から7日までの水道週間の行事として、当組合青年部では、公民館や幼稚園等を訪問し、漏水の有無の調査や、水栓・部品の劣化や摩耗等による異常がないかなどの水まわり無料点検を行っている。また、平成16年8月には東予地方局より愛ロードサポーターに認定され、県管理道路である楠中央通りのごみ拾い、除草などのボランティア活動を年3回実施し、道路の美化活動に努めている。令和3年度からは、世界中で深刻な問題となっている海洋プラスチックごみ問題の状況を踏まえて、日本財団と環境省が共同で開催している海ごみゼロウィークという全国一斉清掃キャンペーンに参加し、海岸清掃を行っている。当組合で取り組んでいることについての説明は以上



である。

●越智議員（委員長）

我々があまりよく知らない活動を地道に管工事業協同組合さんは行われている。これに関して委員から何か質問や要望はあるか。

●高塚議員

人材について、管工事業についても若い人材が不足していることは重々承知しており、講習会の開催など、非常に前向きな取り組みだと思う。講習会に参加するときに、日程の調整や、講習費の一部を助成するなどを行っているのか。あと、毎年継続してインターンシップの受け入れを行っているが、インターンシップ参加者が卒業後に就職した実績等があれば教えてほしい。

○尾田理事

まず、配管技能士の講習について、受検費用以外は当組合で全て負担しており、工具や練習に使う配管材料、ねじを切るねじ切りなど全て組合が用意している。受検の際は、組合で用意した工具などを持参し、親御さんに松山の試験会場まで連れて行ってほしい、試験を受けるという形である。高校生側の負担は受検費用、試験を受けるための費用のみで、残りの費用は組合で負担している。

ちなみに現在3年目で、初年度が10名程度、2年目が4名、今年が5名の受講者がいる。結果は、初年度は10名のうち確か4人合格だったと記憶している。2年目は4名中4名合格、今年が5名のうち、何名合格してくれるかという形で、明日もここで講習会を行う予定にしている。1年で6～7回程度、1回2時間程度講習を開催

している。

○田村代表理事

工業高校の生徒に来てほしい、この業界に関心を持ってもらうという活動は行ってはいるが、残念ながらこの業界への入職者としては、インターンシップ参加者からは出ていないというのが現状である。しかし、こういう活動を継続し続けていくことによって、この業界のPRも含め、関心を持ってほしい、いつかまたそういう時代が来てほしい、こんなことを思いながら、みんなで努力をしている真っ最中である。

●河内議員（副委員長）

愛媛県では高等学校の学校再編が進んでおり、新居浜工業高等学校では今ある5学科を4学科に編成するという案が出ている。また、東予高校、小松高校、丹原高校を一つにまとめて東予総合高校にするという案が出ており、工業を担っている高校の再編が進んでくることを危惧している。業界の方も新居浜市全体としてもものづくりの町として、危惧することではないかと実感しているが、組合の方から工業高校に関する人材育成ということで要望や考えがあればお聞かせいただきたい。

●越智議員（委員長）

最初の質問からちょっと離れたが、工業高校の再編について、情報を持っている方は。

[ なし ]

●越智議員（委員長）

高校も中学も含めて再編の話はいろいろ進んではいるが、こういう情報は市民の皆さんに早くから通達されているわけではないので、情報としてはなかなか皆さんのほうにはいかない。この問題については

また改めて議論したいと思う。インターンシップと講習会についてそのほか、何かあるか。

●伊藤義男議員

人材確保のための取り組みをされていると感じた。それでも入職者がいないということであったが、その理由などを把握していたら教えてほしい。

○田村代表理事

あくまで推測でしかなく、何の確証もないが、そもそも管工事という業界は、いわゆるホワイトカラーの職種というわけではないので、最近の若い子たちで、好んでこの業界に入りたいという人の数が少ないのではないかと考えている。また、新居浜は住友さんの町であるため、学校を含めて、そちらのほうに意識が向いているのではないか。



●越智議員（委員長）

昨年、建設業協同組合と話をしたときに、人材不足という話が出ており、新入社員がなかなか入ってくれないという話があった。そういう意味ではインターンシップも含めて、講習費用などをいろいろ負担していただいております、組合さんとしては非常に先進的な活動をされているのではないかと思います。こういうものがちゃんと身に付いていけば、工業高校生の皆さんも、興味を

持って取り組んでくれるのではないかと感じる。

●神野議員

人が見つからないというのはどの業種でもお話を聞くが、外国人材をどのように受け止められているのか教えてほしい。あと、公共工事を含めて、年間を通して工事がないと、人の雇用にもつながらないと思っている。新居浜市は公共工事の平準化というところで、年度初めに公共工事が出せるように努力はしているとは感じているが、皆さんがどのように受けとめられているのか教えてほしい。

●越智議員（委員長）

まず、外国人材については、どのようにお考えか。

○田村代表理事

まず外国人に関しては、個々の会社レベルでは実習生の受け入れをしながら進めている会社もいくつかあるが、幅広くそれが浸透、周知されているかというところではない。実は、今年4月に、ある送り出し機関さんの協力を受けて、実習生に関する制度の仕組みについての勉強会や説明会の開催をしていただくように段取りしている。興味ある会社はこれに参加し、少しでも若手人材の不足を補填することにつながればと考えている。

ただこれは、車の免許や言葉の壁という問題があるため、会社によってはなかなか受け入れづらいということもあると思う。というのが我々の業界の仕事内容は、工場のラインの中でこの仕事だけをずっとしていればいいというような仕事は少なく、幅が広いので、習得してもらうまでに時間がかかる。元々3年という縛りがあ

るので、その3年の中でどれぐらい教育できるのかということも一つの課題になると思うので、これは個々の会社の判断によってということになると思う。なので、どちらかという日本人の若者に入ってきて欲しいというのが皆さんの本音ではないかというふうに感じている。

○近藤孝之副理事

管工事組合は、年間通して市、県、国の仕事を受注しているが、行政に対し、春先の早い時期に工事を出してほしいという点と、前年度と同額ぐらいの金額の工事を出してほしいという願いは毎年行っている。ただ、どうしても春先の工事、4～6月はなかなか仕事が出てこないため、待っているというのが現状だと思う。

●越智議員（委員長）

ただいまの意見は要望としてまとめさせてもらいたいと思う。他に、いろいろPR活動や広報活動などに関して、質問はないか。

●高塚議員

中学生や高校生に対し、こんなところで社会貢献しているとか、何か魅力を感じてもらえるようなきっかけ作りやPRが大事ではないかと感じる。そうすれば何か心に残った分、職業選択するときこういう業種に入っていきたいなとか思ってもらえるのではないか。

●越智議員（委員長）

インターンシップを含め、ボランティア貢献、水道週間行事や文化祭への参加などいろいろなことをされており、市民に対し、この水道事業について、自分の身近なところの生活に結びついているということ、組合の方にはいろいろアピールしていた

だいていると思う。その辺を含めて、高校生に対して、こんなことをアピールすればもっと魅力を感じてくれるのではないかということや、やり方はないか。

○田村代表理事

皆さんが生活している中でいえば、台所の蛇口や、お風呂、トイレなどが一番身近にある水回りだと思うが、これらを家の建設時につけたり、壊れたら直したり、というところから始まって、公共工事でいえば道路の中に埋まっている本管の工事など、我々の業界はすごく仕事の幅が広いので、この辺りを高校生に説明するのはなかなか難しい。しかし、そういうライフラインという大きな意味での仕事のほか、もっと幅を広げていくとエアコンとかいろんな仕事があり、皆さんそれぞれ向き不向きも当然あると思うが、実際体験をしてもらえれば、そこにやりがいや面白さを感じてもらえる高校生もいるのかなとは思いますが、実際にはなかなかそういうタイミングがない。

なので、少しずつそういうPRなどをしながら、管工事協同組合、町の水道屋さんが、どういうものかというのを高校生に知ってもらい、少しでも興味が湧いて、ちょっとアルバイトでも行ってみようかと思う人が1人でも2人でも増えてきたら、少しずつ、そういう輪が広がっていくのではないかと期待をして活動している。

●越智議員（委員長）

こういうPR活動を、議会としても何かアピールしていければいいのではないかなというふうには思う。ほかにこの項目で質問があれば。

●伊藤義男議員

今、新居浜工業高校にアプローチしていると思うが、その他の高校や高専などにアプローチはされていないのか。

○田村代表理事

現状ではしていない。高専になると少し敷居が高いと感じるのも正直あるし、それ以外の高校については進学率が高いので、やはり我々の業界に入ってもらふ人材という部分では工業高校に近いのかなというところがあり、まずそこからスタートしているというのが現状である。ただ、ほかの学校にアプローチしない理由は特にないため、今後の状況を見ながら行っていくこともあるとは思っている。

## 2. 災害等の対応について

●越智議員（委員長）

続いて、災害等の対応について尾田理事より説明をお願いします。

○尾田理事

災害時の対応について説明する。

当組合は新居浜市と平成9年に大規模災害時における水道の応急活動に関する協定を締結し、平成25年には災害時における応急対策業務に関する協定を締結している。

平成16年に県内で相次いだ台風災害の水害においても死傷者が出る大きな被害が発生したため、水道局からの要請により防災活動や復旧活動に当たった。平成28年に発生した熊本地震、平成30年に発生した西日本豪雨の災害では、上部団体である愛媛県管工事協同組合連合会からの応援要請により、組合員を派遣して水道復旧応援活動に当たった。数日前にも寒波により水道管が凍結する恐れがあるという注意喚起が新居浜市から発表されたため、そ

れに伴い、当組合も水道管の破裂や漏水等が起こった場合に備えて待機し、修理を行うような活動を行っている。平成23年1月16日から18日までの3日間は非常に漏水が多く、全部で272件の凍結破損修理の依頼があり、夜中まで理事などが組合事務所に詰めて対応に当たったことが過去にあった。

異常気象や自然災害のほか、今後30年以内に70～80%の確率で南海トラフ巨大地震が発生すると予測されているが、当組合では、災害発生時における緊急対応と行政との連携を重点目標に掲げており、有事の際にはスマホアプリを活用して組合員間の迅速な情報伝達、情報共有ができる体制づくりをしている。

災害時に命の水を守るという社会的使命を果たすために、災害時における応急対策編成を組み、県や市の防災訓練にも積極的に参加している。



●越智議員（委員長）

要望についてもお願いします。

○尾田理事

まず、提案であるが、避難場所となる学校や公民館、公共施設などに、地下水が出る防災井戸的なものを設置してはどうか。山の方は出にくくはなるので、地下水が出る位置にある施設となるが、大規模災害で

上下水道が破損した場合、インフラ整備の復旧には多大な時間を要するので、飲料水が確保されていても、洗濯やトイレなどの生活用水に回すことが難しいのが現状である。そのため、災害発生時に生活水として利用できる地下水をひとまず確保することが防災井戸の役目だと思う。

2011年の東日本大震災以降、いろいろな地域で見直されるようになっており、また、防災井戸は非常時だけでなく、上水道の代わりに地下水を使うことで、日ごろの有効な節水対策としても利用可能である。燃料や動力を必要としない手押しポンプなどを災害時の非常用水として設置しておく、必ず役に立つと思うので、ぜひご検討いただきたい。

次に、地震等の災害に強い施設づくりを進めていただきたい。

昨年1月に発生した能登半島地震では、水道管などに被害が出て広い範囲で断水が発生した。このことを受けて、国土交通省は避難所や病院、自治体の庁舎など、災害時に重要な拠点となる施設につながる水道管などの耐震化がどれだけ進んでいるかという調査をしている。その結果、四国4県では重要施設で上下水道の管がともに耐震化されている施設は561か所のうち62か所と1割程度にとどまっていることが分かった。具体的には、香川県が0%と全国で最も低く、次いで高知県が9%、愛媛県が10%、徳島県が30%で、徳島県以外は全国平均15%を下回っている状態である。水道管の耐震化は、人口減少に伴う水道料金の収入減少などを背景に、各地で十分進んでいないのが現状であるが、水道施設の耐震化を進めていただき、

地震等の災害に備える水道施設づくりを今後もお願いしたい。

あと、災害時に備えて、新居浜市と我々組合のような地元業者が連携強化を図る必要があるのではないかと考えている。災害が発生して、水道の応急給水や応急復旧、応急対策を実施する必要が生じた際には、上下水道局から当組合に要請があり、組合防災本部の指揮により、組合員が活動するようになっている。しかし、平成16年の台風災害の時は、早期復旧が目的ではあったと思うが、組合を通さずに直接業者に依頼されることがあったので、組合への応援要請は一本化いただき、災害時に備えて連携強化を図っていただきたいと思っている。

#### ●越智議員（委員長）

要望も含めて、これまでの災害に対する組合としての取組を説明いただいたが、議員から質問等はあるか。

#### ●大條議員

とてもいい提案だと、3点お聞きした。これまでの災害時にも古井戸を防災井戸として活用して、洗濯水や飲料水を確保できたというニュースも見聞きした。ただ井戸は、水が出るところと出ないところがある。おまかせして申し訳ないが、具体的に市内の指定避難所で、掘ったら水が出る可能性の高いところをピックアップして、防災井戸を作りませんかというような提案をしていただけると、我々もサポートしやすいかなと思う。

重要な施設で耐震化されていない施設についても、震度どの程度で水道管が破損するのかどうかということも含めて、重点的に耐震を進めたほうがいいのではない

か、といった提案などを、組合の方でもらえれば、一緒に相談しながら、行政を動かすというようなことができるのではないかと思ったが、いかがか。

●越智議員（委員長）

組合の方からこういう提案があって、議会としてはこれに対して、今回要望としてまとめて出すか出さないかということもあるが、大條議員としては、議会としてもこれをぜひとも推し進めてあげたいということか。

●大條議員

はい。私も賛成なので、要望というよりも提案ということで受けとめたいと思う。

●越智議員（委員長）

議会としてもこれは進めていければと思うが、何か追加することはないか。

●仙波議員

現実に公民館や公園に防災井戸を設置しているところもあるが、その数や機能について、議会の認識がないのではないかなと、話を聞いていて思う。そういう意味ではやはり実地に即してということで一度調べた上でお願いをしたらどうかと思う。

●越智議員（委員長）

そういう意味でも我々も勉強する必要があるので、具体的にはどこまで設置されているか、我々も調べた上で、市の方に提案していきたいと思う。そのほかいかがか。

●高塚議員

3点目の災害時に備えて新居浜市と地元業者との連携強化は非常に大事だと思う。例えば年に1回とか継続的にしていくうちに、その連携はさらに強まっていく、充実していくものと思うが、その辺のメンバーや体制、頻度などは、現状どの程度し

ているのか、伺いたい。

●越智議員（委員長）

3項目の連携の強化について、具体的には年に1回とか行っているのか。実際、その体制が毎年変わることもあると思うが、いざというときに有効に動けるようにするためには、定期的に行い、日頃から連携を強化していくことが大事だと思う。現状はどんな感じなのか。

○近藤一太副理事

平成16年以降は新居浜市で大きい災害と言えるようなものは発生していないため、災害本部を立ててからの連絡というのではないのが現状である。ただ、寒波で水道管が凍結する恐れは3年に1回ぐらいある。そういう時には組合の中で連絡を回して、水道事業者の担当者レベルから向こうにも、やっぱり市民の中にはどこに連絡したらいいのか分からない人もいるので、組合に直接連絡がある場合もあるし、上下水道局に連絡する場合もあるので、水道局の方がそれをまとめて組合に持ってきてくれることもある。それぐらいのレベル、担当者レベルにはなるが、何年かに一回は連携が取れているような状態ではある。

●越智議員（委員長）

少しお聞きしたいが、マグネットステッカー、水トラブルの場合はここに連絡したら対応しますよとかいうものが、一般の家庭に配布されることがあると思うが、ああいうところに連絡したらトラブルに巻き込まれたというのを聞いたことがあるが、その辺はどうか。

○尾田理事

冷蔵庫によく貼ってあるステッカーのことかと思うが、全ての業者を悪く言うわ

けではないが、私のお客さんの事例で、ステッカーのとある業者に連絡して配管の掃除をしてもらったところ、すごい金額の請求が来たという話は聞いたことがある。確かにそれは法外と言えるぐらいの値段であった。全ての業者がそうではないとは思いますが、上下水道局からは、指定業者、ホームページの一覧に載っている業者を選んで電話をかけてくださいというような説明を市民にしてもらっている。その一覧表の中にある指定業者がうちの組合ととらえていただければと思っている。

●高塚議員

大規模災害時に水道管が破損し、水が吹き上げるなど、緊急を要するような状況になることがある。新居浜市では、公園や道路の損傷を報告できるアプリがあり、損傷を見つけた市民が写真を撮って、市役所にスマホで送信するだけといった機能がある。下水道も含めて、災害時に水道管の損傷を発見した市民がパッと送れて、それが管工事業協同組合の皆さんに情報共有できるようなアプリを提案しようかと考えている。



●越智議員（委員長）

今の提案はどうか。アプリがあれば非常に便利か。

○田村代表理事

便利だとは思いますが、ただ、その修理が必要になると、その対応するにあたっての手順というか、指示命令系統をどうするかというのを決めてからでないといけないのではないかと。

我々が公道の中に埋まっているものを勝手に触るわけにいかず、あくまでも行政からの要請によって動くというのが我々の仕事である。だから、その情報だけが先に届いても、どういう対応ができるのかと言われると、勝手に動けないというところがあるので、そこの指示命令系統のところをまず明確にしてから、次のステップだと考える。

●越智議員（委員長）

確かに指示命令系統が一番重要だと思う。そのほかに何か質問はあるか。

[ なし ]

3. ウォーターPPPの対応について

●越智議員（委員長）

では次に、ウォーターPPPの現状と要望について、近藤副理事長から説明をお願いします。

○近藤孝之副理事

ウォーターPPPの現状と要望について。現在、新居浜市が取り組んでいるウォーターPPPについて、今までに4回説明を聞かせてもらった。今月末にもウォーターPPPについての取組ということで、当組合からも参加して、話を聞くことになっている。組合として関わるのは限られた部分にはなってくるが、現状としては、あくまで担当課の話としては、地元業者を優先して、全国の手が来ても、協力体制を取る中で、ウォーターPPPを進めていきたいという内容で聞いている。

ただ、ウォーターPPPとは少し違うが、包括的委託業務ということで、今、ヴェオリア・ジェネッツ株式会社が、水道料金の徴収をしている関係で、うちの組合がその検針業務で、水道メーターを月に1回見に行って、水道使用量を測る業務をさせてもらっている。それが一応6年契約、6年間の包括的委託業務になっており、年の初めに、ジェネッツ社、新居浜市、当組合と話をさせてもらい、1件当たり幾らですよっていう金額を決めてしまうと、現状、最低賃金やガソリン代がいくら上がっても、その単価は変わらない。それがすごく大きな問題になっており、このウォーターPPPに関しても、10年契約と聞いている。

行政からは見直しもかけられるという話をもたらしているが、包括的委託業務でそういう問題が発生している部分もあるので、本当に見直しができるのかなという不安は大いにある。例えば先日も少し話をさせてもらったが、うちの業界が取り組んでいる汚水柵設置業務、公共下水をつなぎたいという個人の家に対して、家の水道から公共下水に流せる柵を設置する業務がある。新しい家を建てる時に、水道管、下水道管、雨水の管を引き込む必要があるが、それぞれ別の入札になってしまうと、雨水と水道工事は先にできるが、汚水が後からになってしまうという絡みもあり、水道と雨水で一度設置工事をして、舗装を綺麗に直しても、最終的に下水の入札が終わった後に下水の工事をする際に、また舗装を壊して舗装を直す、何回も通行止めをしなければいけないというような問題があった。市役所の方も、同時施工したら1回で終わるのではないかとということを理解して

くれて、2年前ぐらいからその辺の作業を同時でできるような体制を組んでもらっているが、それについてもPPPで行うと聞いている。そういうことになると、例えば、年間どれぐらい出てくるかというのも大体予想して予算は組むとは思いますが、そういうものが年間で、どんどんその単価が上がってしまい、予算をオーバーした場合はどうするのか、というような、そういうちょっと問題点みたいなのがあり、その辺も少し危惧する部分がある。

実際うちは協力会社という形で参加させてもらうような形になってくるとは思うが、その辺、市役所が説明しているように、地元の業者を本当に優先して使ってくれるのかどうか、という不安も現実問題としてはあると思う。なので、今後も施行されるまでに何回か説明会があると聞いているので、随時説明会に参加させてもらい、その辺の疑問については何回も尋ねようとは思っている。

今度新たに制度として入ってくるものなので少し説明が難しいが、組合で考えているのは大体以上のようなことである。

#### ●越智議員（委員長）

今の話を聞いていると、まだ全体が掴みきれないので、組合としてもどのように対応したらいいか悩んでいるという感じがするが、市から10年契約で一括して大手業者に出した時に、地元業者としては、市が言っているようなやり方ができるのかどうかというのが心配だ、というところではないかと思う。

今までにせっかく作ったルールが、今度PPPをすることによって御破算になってしまうのではないかと、そういう懸念もあ

るのではないかなというふうに思う。我々が市から説明を受けているのは、確かに10年契約で、市から一本で、大手さんに発注したものを受けて、その受注者さんが地元企業さんを優先的に使うルールをつくる、とは言ってはいるが、じゃあ行政がその地元企業に対して或いは元請に対して、こんなふうにやりなさいとかいう指導があって、今まで通り同じように地元企業を優先して使うというのが、本当にルールとしてやれるのかどうかというの、ちょっと不安なところを私も感じる。その辺の不安があって、今回このテーマについて議会としても取り上げようということで、少し勉強はしてきたが、今の組合さんの説明を受けて、何か質問とか、提案とかはあるか。

●伊藤義男議員

PPPについて、今日、担当課の人と話をしてきたが、その企業と会社A社だったらA社ばかりに偏ってしまう可能性も考えられるので、地元の業者を守るためには、組合でまとまってもらって、そういった企業と契約して、組合の中で仕事を回していくというのがベストな判断かなとも言っていた。あと、市としては固まってはいるとは言っていたが、1社だけに全部任せるのか、SPCという何社かで固まって特別目的会社を作ってもらってやるのかによっても、どのようにしていくのが変わってくると思うが、そういう形では市の方は言っていた。

●越智議員（委員長）

組合として一本にまとまって大手企業と対応しないと、バラバラだと損をするのではないかという気は私もするが、その辺

はいかがか。

○近藤孝之副理事

そのあたりも、今、行政と話をしている。少し説明不足で大変申し訳ないが、このPPPに関わる管工事組合の工事というのは大体10～15%ぐらいである。多分、重きを置くのは建設業協同組合さんになってくるが、管工事組合としても、当然建設業協同組合さんとも連携を図りながら、やっていきたいと思いますということで何回も話をさせてもらっている。建設業協同組合さんもあまり乗り気ではないところもあって、やっぱり単価の問題である。建設業協同組合さんも県の工事の関係で、県道の補修などいろんな分野に携わっているが、6年間だったり10年間だったりする契約の中で、年の初めに単価が決まったらどんなに物価が変動しても、その単価は据え置きと言われると、なかなか難しいのが現状ではないか。

先ほど説明した包括的委託業務の検針業務でも、組合としたり大変困っている。ただ、今年が切り替えの年なので、今回は上げてほしいという要望はしているが、そういうのを目の当たりにすると、10年って本当に大丈夫なのかというのは、一番の問題になってくる。建設業協同組合さんも組合もだが、10年と言わずにもう少し契約期間を短縮して3年とか5年で一度することはできないのかという疑問を投げたような記憶がある。なので、PPPに関して極端に言えば、組合に関わる部分が50%以上、これぐらいあるよというのであれば、少し考え方も変わってくる可能性もあるが、関わるところが少ないというのもあり、その辺はちょっと難しいところでは

あると思う。

●越智議員（委員長）

確かにいきなり10年契約で、10年間全然ルールを変えないという話になったら、やってみて問題が出てきたときに一体どうするのかという話があるかもしれない。確かに3年とかでまず試行してみて、様子を見て、長くしていくというようなことも必要かもしれない。さっき言われたように管工事業さんよりも建設業界の方が費用の大部分を担っているという意味で、この連携についても、下請け同士でちゃんと連携しろと言われても一本筋ではなかなかいかないというのも何か理解できる気がする。あと何か質問はあるか。

●神野議員

我々も委員会として上下水道局から説明を受けた上で、この場に臨んでいるが、そこで受けた説明と今話を聞いた上での感じ方や印象というのが結構大きく変わったというのが正直なところである。なので、やはり現場の方の声をしっかり聞いた上で、議会として新居浜市に対して要望を上げていく中で、今回の1回だけではなく、今いただいた意見を一緒にまとめて進めていけたらと感じた。



○近藤孝之副理事

是非ともそうしていただければありが

たい。同じ地元でもあるので、建設業協同組合さんとは、割と親密にこの件に関して話をさせてもらっているのもしよければ、建設業協同組合さんも含めて、話をさせてもらい、より大きな声で要望させてもらえればありがたいと思う。

●越智議員（委員長）

という提案があったが、いかがか。またこれから引き続いて、建設業協同組合さんも含めて、こういう場を持ちたいと思うが。

[ 異議なし ]

●越智議員（委員長）

これについては、引き続き検討していきたい。その他には何かあるか。

[ なし ]

4. 上下水道事業の課題と要望について

●越智議員（委員長）

最後のその他の要望についてお願いします。

○近藤一太副理事

まず1点目が、住宅の新築工事における合併浄化槽の補助金交付について。現在、新居浜市では改造・改築により合併浄化槽を設置する個人を対象に、補助金を交付しているが、生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するために、新築工事においても補助金を交付していただきたい。ちなみに以前は新築の物件にも補助があったし、今も四国中央市、西条市の両隣は新築物件でも補助がある状況である。ぜひとも、人口増加等々含めて、検討していただくと新居浜も活気づくのではないかなと思うので、お願いします。

次の水道工事事業者の資格取得等について、これは我々の地位向上というふうにとらえてもらうとありがたいが、今現在、

建設業には 29 の業種があり、我々水道事業者が関わるのは主に、土木一式工事、管工事、水道施設工事、消防施設工事の 4 業種である。それぞれの業種に登録するには水道以外の国家資格の取得が必要で、特定建設業の許可になると、原則、営業所の専任技術者と現場の技術者の計 2 名の一級国家資格者が必要となる。また実務でいえば、水道管工事の入札参加条件として、公益社団法人日本水道協会の排水管技術者名簿に耐震継ぎ手や大口径管で登録されている者の配置、それから配水用ポリエチレンパイプシステム協会の水道配水用ポリエチレン管施工講習会の受講者の配置などが求められる。

それ以外にも、水道工事店を指定工事店に登録する上でも給水装置工事の資格が必要であったり、下水工事の指定工事店になるためにも排水設備士の資格が必要になったりと、多岐にわたる資格の取得が必要で、企業としての体力維持、作業員の雇用、重機の確保などの問題もあり、仕事をする上でとても費用が掛かっているのも、公共工事の分離発注の継続とこれまで以上の仕事量をお願いしたい。

●越智議員（委員長）

今の説明に対して、委員から何か質問等あるか。

●高塚議員

新築工事における合併浄化槽の補助金について、数年前までは継続してあったのか。これは何年ぐらいからいつまでか。

○田村代表理事

はっきりとは覚えていないが、新築工事の補助金交付がなくなってから 20 年ぐらいは経つのではないかと思う。実は、毎年、

商工会議所の建設部会から、新居浜市に対して要請を毎年上げている。同じ内容で 10 年、15 年ぐらい上げてはいるが、一向に検討される気配がないため、管工事組合からも、今日の機会をぜひ有効に、という中の一つとして、お願いしたい。

●大條議員

令和 5 年 3 月に下水道工事の計画区域を縮小したが、下水道化しなければいけないところを限定し、4,000ha から 2,500ha ぐらいになった。逆に言えば 2,500ha に入っていないところは新築でも浄化槽を設置しなければいけないので、補助金出さずしてよという言い方ができると思うが、ただ、境界線であるとか、その計画区域内だけれど下水道が来るまで 5 年どころじゃなくもっとかかる場所も出てくるかと思う。そのあたり、どういう対応をすればよいか、組合としての考えがあれば。

○田村代表理事

以前、新築住宅に補助金が出ていたときの対応はどうだったかというのと、あくまでも計画区域に入っているところには浄化槽の補助金は出さない、という考え方があったので、もし、今回検討してもらえたことになったとしても、計画区域内については下水道が来るまで何年かかろうが補助金が出ないことになっても、多分やむを得ないという結論になるとは考えている。しかし、下水道が絶対来ないという地域に関しては、両隣の市町と同じように、出さずしていただくように要望したいと思っている。

●仙波議員

多分最初は、県の補助金だったと思う。で、県から市に変わったときに、やっぱり従来の下水道区域であるとかという考

え方がある意味今の時代に合わせるという意味では先ほども出たとおり人口減少とかそういうふうに変えていかないと、単純に同じような補助金を作るといのはおかしいことになると思う。確かに言われることは我々もよく分かるし、新築も出してくれたらいいのになというのは当然あるので、やはり時代に合わせていくために皆さんの意見を聞いて、我々がどういうふうにそれを消化して、次につなげていくかということ少し勉強させていただきたい。



#### ●神野議員

大生院に住んでおり、合併浄化槽はどうしても必要なので、実は私からも毎年要望を上げている。国の動きというのは、まずは汲み取り式や簡易水洗を改善していこうということで、宅内配管の方にも補助金が少し拡充されたという経緯もあるが、やはり下水道の計画区域から外れているところに関しては必ず必要だと思うので、これは引き続き私も要望をしていきたいと思っている。公共工事の分離発注の継続とこれまで以上の仕事量の確保という点について、言われるとおりで、最初の議題でもある人材確保などについても、お金をしっかり稼がないと継続できないというのは十分理解している。

最初説明いただいたときに、4月～6月の工事が少ないという意見をいただいたので、実は、債務負担行為とあって、2月議会で次の4月の予算を先にとって4月のスタート時に工事ができるような仕組みが進められて、実際やっているが、私らは数字しか見えないので、現場の声というのが本当入ってきていないというのを今日、改めて感じたので、そのあたりをしっかりと受けとめさせてもらいたいと思った。

#### ●越智議員（委員長）

以上で今日の4テーマとも意見の交換が終わったが、4テーマを通して何かもう少し話したいこととか提案はないか。

#### ●伊藤義男議員

あまり関係ないかもしれないが、今、土日も建設業はお休みしなさいという形になったと思うが、人材不足の中でその影響がどれぐらいあるのか教えてほしい。

#### ○田村代表理事

まず土曜日の休みだけではなく、労働時間の上限規制というのも入ってきている。そのような中で、賃金の上昇、最低賃金がアップされて、人手が足りない上に、働く時間も短くなり、給与も上げなければならないと、真綿で首を絞められているような状態がずっと続いているというふうには、おそらく皆さん感じている。

その中で、民間の仕事、行政、公共工事の中で、各単価の話や仕事の量の話などできることをして、そういうマイナス面を補っていくしかないなというところで日々動いているというのが実態かなと思う。土曜日でも仕事してはいけない、残業もしてはいけないということになると、ますます正規雇用をしにくくなる可能性が高い。だか

ら、一人親方を限りなく雇うとか、非正規でやっていくという抜け道を探さざるを得ないという状況になりかねないというのが、私見としてはあって、偏った側面、片方からの見方ということではなく、その実態に沿った状態のものを緩やかに認めてもらわないと、我々からすると、一方的なしんどい、押し付けられている感というのがすごく強い状態だと感じている。

●越智議員（委員長）

切実な問題で、これはなかなか一朝一夕では解決できない話であるが、そういう状況にあるというのは、皆さんご存知だと思う。ほかに何かあるか。

●伊藤義男議員

土日は休まなければいけない、残業してはいけない状況で、公共工事の工期が厳しいということはあるのか。公共工事は余裕を持ってきているのか。

○近藤孝之副理事

現実には、水道屋さんの工事というのは、建築物件に関しても道路を掘ったり埋めたりする工事に関しても一番最後になる。上下関係があるわけではないが、例えば道路を工事するのに、まず下水の工事、土木屋さんの工事というのは割ときっちり土日の休みを踏まえた工程を組めるが、最後、残った時間で水道屋さんお願いねと渡されたときには、やはり現実問題として難しいところがある。市が発注する工事というと2,000万円以上の工事に関しては、土日も休んでね、休んだほうが経費率の見直しとかもあって少しお金も上がりますよ、とは言ってくれるが、やっぱり工期でいうとメインとなる土木屋さんや建築屋さんが土日をきっちり休む工期で工事を進めら

れるので、残った日にちでやってねと渡されても、なかなか難しいのが現実だろうと思う。

●小野志保議員

現場の声を聞くというのは、私たちは一番に考えているが、今日、実際、生の声を聞いて、たくさんの課題があるということを感じた。地元の事業者が最優先と、私たちは全員一致しているので、皆さんの声をしっかりと届けていく、そのためにも、仕事量の確保というところは、私は一番に考えている。また人材確保ということでは、できれば工業系以外の高校生とか、ハローワーク、一旦、専門学校や大学などを出たけれど帰った方や若い方にもぜひ声掛けしてもらえれば嬉しいと思う。試験代以外を全部負担いただいているって本当に頭が下がる。今後とも皆さんの声を市議会として受けたいと思うので、今後とも引き続きご指導の程、よろしく願います。

まとめ・閉会挨拶

●越智議員（委員長）

管工事業協同組合の秋山事務局長からご挨拶いただきたい。

○秋山事務局長

安全でおいしい水を守り続ける。日本ではごく当たり前として考えられていたことが、近い将来、当然のことではなくなってしまうかもしれない。日本の水道事業はインフラ整備や水道管などの老朽化、人口減少による経営基盤の不安定化、熟練技術者の不足に伴うノウハウ継承など解決すべき課題が山積しているが、私たち組合加盟企業は地域に根差した地元で信用のできる工事業者として、またライフラインの守護神として責務を果たせるよう、今後と

も努めていく。

●越智議員（委員長）

今日いただいた内容は、議事録を作って、その中から市への提言事項を取りまとめたいと思う。今日出していただいた中から、ぜひ市に上げていきたいというものもあると思うので、まとめたものを組合さんにも見ていただき、そのあとで市長に出したいと思う。最後になるが、副委員長の河内から一言挨拶をさせていただく。

●河内議員（副委員長）

今回、管工事業協同組合様の会館をお借りし、経済建設委員会の市民との意見交換会を開催させていただいた。開催に当たり、田村代表理事を始め、近藤副理事長、尾田理事、秋山事務局長においては開催準備に多大なご尽力をいただき、感謝申し上げます。今回、管工事協同組合様が長年にわたり、水道事業を支えていることや、365日当番制にて水道修理に対応いただいていたこと、凍結時にも待機して私たちの暮らしを守ってくれていることを知ることができ、より理解が深まった。

また、新居浜市が導入しようとして計画しているウォーターPPPは官民連携の上下工水道事業を推進している。この計画では、地元業者の方に、最大限活躍してもらうことや、災害時の対応力向上、人材確保を目指している。来年度より、本格的に事業の話合いが始まる。今回いただいた意見は、まとめさせていただき、新居浜市に届けていく。

今後の管工事業協同組合様の益々のご発展をお祈り申し上げ、終わりのあいさつとさせていただきます。

●越智議員（委員長）

以上で閉会する。



## 企画教育委員会

日時 令和7年1月24日（金） 17時～18時30分

場所 新居浜市議会議場

<テーマ 新居浜市の未来について中学生として思うこと、何が一番必要だと思うか>

【司会】企画教育委員長：白川 誉

【参加者】※敬称略

(企画教育委員会)

- ・白川 誉 (委員長)
- ・田窪 秀道 (副委員長)
- ・近藤 司
- ・伊藤 優子
- ・藤原 雅彦
- ・山本 健十郎
- ・合田 晋一郎
- ・片平 恵美
- ・野田 明里

(市内中学生)

- ・近藤 利風 (東中学校生徒会長)
- ・伊藤 光虹 (東中学校保体委員長)
- ・大石 虎之介 (西中学校書記兼文化委員長)
- ・三ツ井 百々子 (西中学校福祉委員長)
- ・萩尾 樹里 (南中学校生徒会長)
- ・小野 悠希 (南中学校図書委員長)
- ・水田 優音 (北中学校生徒会長)
- ・中路 理央 (北中学校生徒会副会長)
- ・戎 琥太郎 (泉川中学校生徒会長)
- ・日野 京香 (泉川中学校生徒会副会長)
- ・田中 千咲 (船木中学校生徒会長)
- ・高橋 一太 (船木中学校生徒会副会長)
- ・帆谷 未来 (中萩中学校生徒会長)
- ・曾我部 結理 (中萩中学校生徒会副会長)
- ・加藤 花 (大生院中学校生徒会長)
- ・河野 太一 (大生院中学校生徒会副会長)
- ・近藤 百花 (角野中学校生徒会長)
- ・吉田 一晴 (角野中学校生徒会副会長)
- ・岡部 瑛太 (川東中学校生徒会長)
- ・浮田 結生 (川東中学校生徒会副会長)
- ・谷野宮 有花 (別子中学校生徒会長)
- ・相原 照生 (別子中学校生徒会役員)

## 記録

### ●白川議員<委員長趣旨説明>

ただいまより新居浜市議会企画教育委員会、市民との意見交換会を開会する。まず始めに、この会の趣旨を説明させていただく。新居浜市議会は、様々な内容の問題をたくさん取り扱うことから、分野ごとに、企画教育委員会、市民福祉委員会、経済建設委員会の3つの委員会を設置し、所管の事務に関する調査、議案及び請願等を審査している。そして、幅広く市民の皆さんの声をお聞きするために、年に一度、様々な分野の団体や企業の方々との意見交換会を開催しており、企画教育委員会は今回、中学生の皆さんの声をお聞きするために、市内11校の生徒会役員の皆さんに御参加いただいた。また、この議場は、議会活動の中心となる神聖な会議の場所と言われており、傍聴席を除いて関係者以外の入場は原則禁止されているが、新居浜市議会を中学生の皆さんにも身近に感じてもらいたい気持ちで、今回特別に許可をもらって開催させてもらった。また、事前に提出してもらった市議会議員に聞いてみたいことに対する回答については、まとめて回答書として手元にお配りしているので、確認をお願いします。限られた時間ではあるが、せっかくの機会であるため、非日常を体感



してもらいつつ、他校の生徒会や市議会議員とのつながりを深めていながら、新居浜市の未来についての意見交換会としたいと思うので、よろしく願います。

まず、自己紹介をお願いします。

(参加者自己紹介)

**なぜ生徒会役員になったのか？ なぜ市議会議員になったのか？**

### ●白川議員(委員長)

それでは意見交換会に入る。本日参加している中学生の皆さんも、私達市議会議員も、選挙に立候補したという共通点がある。そこで、なぜ生徒会役員になったのか、なぜ市議会議員になったのかをそれぞれお聞きしたいと思う。

#### ○相原さん(別子中学校生徒会役員)

私は誰もが明るく、一人一人が輝ける学校という公約を掲げて立候補した。別子小中学校は少人数の環境である。その環境を生かしてもっと小学生や中学生の得意が生かせる環境、そしてみんなが輝いて誰もが幸せな生活を送れる学校にしたいと思い、立候補した。

#### ○浮田さん(川東中学校生徒会副会長)

私は兄や部活動の先輩が生徒会役員として活躍し、学校を支えている姿を見て、私も学校の役に立てる人間になりたいと思い、立候補した。

#### ○吉田さん(角野中学校生徒会副会長)

私が生徒会役員になろうと思ったきっかけは、明るく魅力的な学校にしようと思ったからである。私が入学した時から角野中学校は良い学校だと思っているが、もっと良い学校にできると思い、立候補した。

#### ○加藤さん(大生院中学校生徒会長)

私が生徒会役員に立候補した理由は、大

好きな大生院中学校をさらに笑顔あふれる学校にしたいと思ったからである。最近私たち子供の人数が減少しているというニュースをよく耳にする。そんな時代だからこそ毎日学校に行くのが楽しみと思えるような学校にしたいというのが私の一番の望みである。自分の楽しみをほかの人と共有できる、そんな学校にしたいと思い、生徒会役員に立候補した

○曾我部さん（中萩中学校生徒会副会長）

私は学級委員をしていたこともあり、生徒会活動に関わるが多かった。特に中萩中学校の伝統である空き缶アートの吊り上げ作業に参加したときに、当時の役員の方々がとても丁寧に優しく教えてくれた。そんな姿を見て、私もこのような存在になりたいと思った。また、中萩中学校と生徒の関わりをもっと深めることや、生徒一人一人が、中学校が自分の居場所だと思える学校づくりをしたいと思ったからである。

○田中さん（船木中学校生徒会長）

私が生徒会役員になった理由は、先輩方を見て生徒会活動に興味を持ったからである。安心して過ごせる学校にするために意見箱を設置し、生徒からの案を生徒会や職員会議、校則検討委員会、PTA役員会で審議を行い、可能であれば案を取り入れていきたいと思っている。また、学年間の交流を増やし、絆を深め、縦割班活動をつくり、球技大会を実施したいと考えている。こちらも生徒会や職員会議等で話合いの場を設け、実施できるよう行動していきたい。学校に登校できていない生徒がいるため、イベントを充実させることで、登校の難しい生徒も学校へ行くきっかけをつく

りたいと考える。

○日野さん（泉川中学校生徒会副会長）

私が生徒会役員になった理由は、泉川中学校を今よりもっと挑戦する生徒であふれた学校にしていきたいと考えたからである。挑戦して失敗しても、失敗した自分ではなく、成長した自分が待っていると私は考えているため、私自身難しいことにも挑戦する気持ちを持って取り組んでいる。泉川中学校の生徒のみんなにも、このような気持ちを持って学校生活を送ってもらいたいと思い、生徒会役員となり生徒のみんなが挑戦できるような政策を行っていきたく考えたため生徒会役員になった。

○水田さん（北中学校生徒会長）

私が生徒会役員になろうと思ったきっかけは、自分が大好きな北中をもっとみんなに大好きになってほしいと思い、立候補した。他学年との交流が少ない北中では、もっとイベント行事を増やして他学年との交流を深めたいと思い、立候補した。



○小野さん（南中学校図書委員長）

私が生徒会役員を目指そうと思ったきっかけは、学校全体をまとめるリーダーになりたいと思ったからである。一人一人が輝ける南中を目指すのが私の目標である。全校の意見をまとめるのは難しいことだが、一生懸命頑張りたい。

○大石さん（西中学校書記兼文化委員長）

西中は比較的治安も良く、過ごしやすいため自分自身とても好きである。その一方で、西中には生徒会企画がほぼなく、中学校生活はあっという間に過ぎていくものなので、その限られた時間の中で生徒が楽しめる、かつ西中でこのイベント楽しかったなど、今後の人生で印象に残るような企画を作りたいからである。

○伊藤さん（東中学校保体委員長）

私が生徒会役員になった理由は、元生徒会役員の先輩たちに憧れ、私も東中をよりよいものにしていきたいと思ったからである。そして、この経験を通して自分自身ももっと成長できるかなと思ったからである。

●片平議員

私は同じ思いの人たちと集まりを作っているが、その中で議員をやってみないかという話をもらった。私は子供に障がい児がいるため、障がい児を抱えてできるものなのかとかなり悩んだが、障害があっても安心して暮らせる、多様性が大切にされる地域づくりに貢献したいと思い、決意した。

●野田議員

私は子供を3人育てながら、産前産後の妊娠中や産後のお母さん、女性の心と体のケアをする仕事をしていた。その中で女性



やお母さんの実際の声と政治という土俵の中で語られている女性、お母さんの声があまりにもかけ離れているのではないかとずっと疑問に思っており、実際のお母さんたちの声が届けばもっと世の中は良くなるのではないのかと思い、市議会議員に立候補した。

●合田議員

私が市議会議員になった、目指したのは10年以上前だが、その時に中学生や小学生に未来の新居浜について、絵や作文を募集した。それを見たり読んだりしていると、すごくわくわくした。その時私は新居浜市職員だったので、まちづくりを担う立場ではあったが、そういった市の計画よりもみんなが描く絵や作文というのがすごくわくわくして、それをぜひ実現したいという思いで市議会議員を目指し、その中で取り組んでいる。具体的には市役所周辺や駅周辺、前田町周辺などの個別のまちづくり、都市計画分野になるが、それを主に頑張っている。

●山本議員

私は昭和62年に議員になり、今、議会の中では最古参である。出馬の決意をしたのは、もう38年前のことだが、太鼓台も通れないような道路もあり、また、下水もなかなかスムーズにいかないような、そういう自治会、地域の環境改善のために皆さんの強い要望で出馬し、議会の中で頑張れという声をいただき、今日に至っている。年齢で言えば86歳だが、元気で頑張っている。どうぞよろしく願います。

●藤原議員

市議会議員として数少ない政党の公認をいただき、立候補した。青年時代から党

員として活動する中、党員の皆様から市民の声を市政に届けてほしいという声をいただき、立候補してはどうかという声をいただきました。私自身としては随分悩んだが、少しでも皆さんのお役に立てるのならば、との思いで、平成15年立候補、当選し、今日まで22年間市議会議員として皆さんの声を市政に届けている。

●伊藤優子議員

議員となり約25年になるが、当時はPTA役員をしていた。私が市議会議員になった当時は新居浜市には中学校給食がなかったため、中学校給食を実現するために議員になった。

●近藤議員

私は新居浜の高校で学び、大学進学を機に一度県外に出たが、生まれ育った新居浜市に対する思い入れが非常に強く、卒業してすぐ新居浜に帰り、サラリーマンとして勤めていたが、42歳で市議会議員を志し、新居浜に住んでよかった、住み続けたいと感ずることができるようなふるさと新居浜市を議員になり、直接関わってつくりたいという思いから市議会議員になった。

●田窪議員（副委員長）

私は親戚が大島に住んでいることもあり、立候補する以前16年間、その地域には市議会議員がおらず、地域の課題や要望が行政に通らなかったということで、近隣自治会、校区の推薦を受けて市議会議員になろうと決意した。

新居浜市の未来について中学生として思うこと、何が一番必要だと思うか

●白川議員（委員長）

共通して、何かを今よりよくしよう、人の役に立ちたいということなどが、中学生、

議員どちらからもあったと思う。皆さんそれぞれの思いがあり、今の立場があることがわかった。そんな立場の皆さんと新居浜市の未来について考えていきたいと思う。新居浜市の未来について中学生として思うこと、何が一番必要だと思うのかなどについて発言をお願いします。

○近藤さん（東中学校生徒会長）

私には姉がいるが、大学へ進学し県外で学んでいる。姉の友達や進学した人は、県外へ進学した人がほとんどである。新居浜で学びたい人のことや、家族、親の負担を考えると、新居浜でも学べる大学や専門学校が必要だと思う。そうすることで、新居浜は若い力が増え、活気が出ると思う。



●片平議員

18歳以上の人が学ぶ場が専門学校と高専しかない。進学と言えば市外に移る人がほとんどというのは寂しいと思う。どんな学校があれば新居浜で学びたいと思うか、個人の意見でいいので教えてほしい。

○近藤さん（東中学校生徒会長）

新居浜の歴史など、新居浜のことについて学べる学校も欲しいと思う。

○三ツ井さん（西中学校福祉委員長）

私たちが必要だと思うことは2つある。まず1つ目は新居浜の伝統を大切にしていこうことである。以前、全国の祭りが集ま

るイベントに参加した際、新居浜の太鼓台も出場しており、それを見た会場にいるお客さんたちは、太鼓台の激しい動きや、掛け声や太鼓の音などで感動し、盛り上がっていた。そのような新居浜のすばらしい伝統をこれからも受け継いでいくことが大切だと思う。

2つ目は、今ある最先端の技術を用いて、新居浜市の未来を築いていくことである。太鼓祭りなどの伝統と、誰もが住みよと感じ、住み続けられるエコなまちづくりをPRしていくことが大切だと思う。

#### ●藤原議員

一番必要なものは新居浜の伝統を大切にしていくこと、地域への興味関心という言葉をいただいた。西中学校さんということで、去年ぐらいから様々な地域行事に西中学校生徒の皆さんがボランティアとして参加してお手伝いしていただいております、感謝する。これが一つの地域に対する興味を示す第一歩だと思う。そして太鼓台だが今年開催予定の大阪・関西万博で、新居浜市でも今のところ3台の太鼓台を要請、派遣することが決まっているが、そういった形で太鼓台を貴重な観光資源というよりも、新居浜のシンボルとしていきたいと思う。そういった形で我々も違う側面で一生懸命頑張るので、よろしく願います。

#### ○萩尾さん（南中学校生徒会長）

私は新居浜の未来のためにはもっと活気が必要だと思う。理由は、今は昔に比べて人口が少なくなっており、その分若い人や子供の数も減ってきているため、活気もどんどんなくなってしまうのではと思うからである。人がもっと来るような、住むような取組をして盛り上げていくことが

必要だと思う。難しいかもしれないが、子育てをしやすいように給食費の無償化や、若者がより来るような施設をつくること、市民の意見を聞く機会をたくさんつくれば、若い人や、様々な人が来て、もっと新居浜が盛り上がると思う。

#### ●伊藤優子議員

もちろん子育てをしやすい環境をつくることは大事なことだと思うが、給食費の無償化は一つ的手段にすぎず、まずは子育てしやすい環境をつくるのが大事だと思う。また、その環境の中では夫が支えることができる、困った時には相談に乗ってもらえるなど、多岐にわたると思う。それぞれを解決しながら皆さんのニーズに応えることが一番だと思う。施設の話があったが、どんな施設があったらいいと思うか。

#### ○萩尾さん（南中学校生徒会長）

今の学生は遊びに行くとするれば、イオンモールに行っているが、もうそこしかないと思う。本当に難しいことだと思うが、イオンモールのような買物ができる施設やスポーツができるような、ボーリング場などの施設があればいいと思う。

#### ○中路さん（北中学校生徒会副会長）

私が新居浜市に必要だと思うことは2つあり、1つは高校生が受ける大学入試共通テストなどの試験会場を新居浜にも用



意し、受けやすくして欲しいと思う。私には兄弟がおり、共通テストを受けた時に市内に会場がなく、受験会場に行くのが大変そうだった。

2つ目は南中の方も言っていたように、若者が楽しめるような施設がもう少し新居浜に欲しいと思っている。

●合田議員

まず1つ目の共通テストについては、おそらくみんなの声だと思う。実は過去の先輩、高校生などにも新居浜に試験会場がないという意見を言う方がたくさんおり、その中で、保護者や高校PTA、また、この議場でも話し合われたことがあり、議員からこういったことができないのかということも出たりした。そういった意見を踏まえて令和5年12月19日に当時の新居浜市長と四国中央市長2人の連名で、東予地域での大学入学共通テストの試験会場設置に向けて、共通テスト試験会場選定に係る世話大学である愛媛大学に要望した。そして、令和6年11月14日に愛媛大学から正式な協議結果、回答があった。現時点では四国中央市及び新居浜市に試験会場を新たに設置することは困難という回答が返ってきた。理由としては、テストを安全に実施するにはふさわしい試験会場が両市にはない、また、人材派遣や試験問題の機材を運んでくるということは大変であるという回答が返ってきたが、それで終わりではない。そういった回答が来たが、なぜできないのか、どうしたらできるのかということは今後とも私たちもみんなも訴えていく必要があり、まさに今回の中学生との意見交換会でこういった課題、議題が出たこと、それについて話し合われたこ

と、そういったことを積み重ねていくことにより、それをどうすればできるのかということも訴えていく。一度できない、困難との回答が返ってきたが、新居浜市、四国中央市の両市を踏まえて今後動いていくことが必要だと思う。今試験会場は松山にしかないため、今後新居浜市に欲しいという要望もあると思うが、具体的にこのような試験のシステムだったらいいといった提案があるか。

○中路さん（北中学校生徒会副会長）

場所は高校生など学生が多い場所に追加できたらいいと思う。

●合田議員

そういったことを皆で考えていきたい。これもこの会で終わりではなく、生徒会でも話して、今皆さんは中学2年生ということで、大学受験までまだ何年もあるので、このことについて、いろんな発言の機会があれば言い続けていくことが大切だと思う。若者が楽しめる場所が欲しいという話だったが、特にまちづくりを考えていく中でラウンドワンというような話がこの議場で出たのだが、そういったことを話し合っていく、考える時に単に何の施設が欲しいではなく、具体的にここにできたらいいとか、大きい3階建ての施設はいらないが、2階建て1階建ての施設がいいとか、みんなの声を上げていくことが大事になってくる。そういったことを踏まえて発信していけば、具体的にラウンドワンの方からもある程度の回答、返答を考えてくれることがあるため、それを伝えていくのが大事だと思う。楽しめる施設ということだったが、具体的に何が欲しいというのはあるか。

○中路さん（北中学校生徒会副会長）

先ほど南中の方も言ったように、今はイオンモールしかないため、他にもイオンモールにはないようなお店が入った、買物ができる施設などがあると若い人たちも喜ぶと思う。

○戎さん（泉川中学校生徒会長）

私が今の新居浜市で必要だと思うことは、新居浜市の魅力をもっとたくさんの人に知ってもらうことである。新居浜市にしかない、新居浜市だけの伝統を世間に広めることで魅力を再確認し、地域の活性化につげることができるのではないかと思う。そして日本中、世界中にこの新居浜市のことを知ってもらうことで新居浜市を盛り上げることができるのではないかと思う。

●片平議員

私が育ったのは福岡県で、25、6歳ぐらいの時に新居浜に来た。新居浜に来て一番すごいと思ったのは、四国山地の山並みで、福岡の山は平野の中に山があるので、みんなあの山は何山かが分かるが、この人たちはあの山は何山と聞いてもどの山を差しているのかわからないぐらい山が連なっており、すごく迫力があり本当に素敵だと思った。そして新居浜は本当に水がおいしい、素敵なところだと思っている。その水がおいしい、風景がきれいということをどうやってアピールしていけばいいのかわからないため、戎さんは新居浜のどういうところが好きなのかと、どういうアピールをすれば若い人に刺さるのかを教えて欲しいと思う。

○戎さん（泉川中学校生徒会長）

私が新居浜市で好きなところはちょうどよく都会で、ちょうどよく田舎だという

ところである。空気がきれいで住むのにもとてもちょうどよいと思っている。そして、魅力をもっとたくさんの人に知ってもらうためには、4月に大阪で万博が開かれる際に新居浜の太鼓台も万博に行くというところにいるため、そこで日本中、世界中から来る人たちに新居浜市の魅力をもっと発信することが大切だと思う。

○高橋さん（船木中学校生徒会副会長）

新居浜は工業など、第2次産業に頼りきっていると感じているため、それ以外の新居浜の魅力を増やし続けることが大切だと思う。その魅力はそれぞれの地区の人が詳しいため、新居浜にある学校から発信することも必要だと思う。そのために1つ目、中学校の生徒会役員が集まり、それぞれの校区のよさを伝え合う場をつくること、2つ目、各校が配っている生徒会通信をまとめ、人が集まる場所に展示するなどの活動を行ってはどうかと思う。

そのほかにも、これからの社会を担っていく若い世代の人たちがここに住みたい、ここで働きたいと思えるような地域環境づくりが必要だと思う。そのため、ベテラン世代と若い世代の交流会など、意見交換ができる場が必要だと思う。

そしてほかにも、新居浜には人の集まる観光スポットや大型商業施設が少ない



と思うため、そのようなものをつくるために新居浜の名産品を編み出し、新居浜の財政が潤うことが必要だと思う。

●藤原議員

まず第2次産業が多いのは、皆さんご存知のように、新居浜というのは住友発祥の地で、ある意味では財政的には住友企業さんがあるからいいというところもある。それでは住友だけでいいのかと言われれば、これから将来のことを考えると、個人的には農業に力を入れていかないといけないなという気がする。そういった形でこれからの新居浜を考えたときには、住友さんを中心として、それ以外の会社、また農業や観光といったものをしっかりマッチさせていくのがこれからの新居浜市のまちづくりだと思う。生徒会の方で発信する場所、集まる場所をと話されたが、イメージとしてはどういう単位で、校区でやるのか それとも市全体でやるのか、市全体でやるならどういった場所がいいのか、もしイメージがあれば教えてほしい。

○高橋さん（船木中学校生徒会副会長）

集まるのは市全体で、中学校の生徒会長や生徒会副会長が今のように会議として話し合える場が必要かと思う。

●藤原議員

我々議員は年に4回程度議会を行っているが、今日来ていただいた中学生の皆さんが年に何回か集まって、このような場所で、相手は議員でもいいが、私たち議員には基本的に予算権も執行権もない。一番あるのは市長、そして部局長で、そういう意味ではこういった形で、今度は各部局長さんや市長さん、そういった人を交えて行えばいいのではと思う。このことについて

は議会のほうで市当局に要望をあげていきたいと思うので、よろしく願います。

○帆谷さん（中萩中学校生徒会長）

私は新居浜市が好きだが、大学に進学するために市外や県外に出て、そこから新居浜市に戻るかを考えた時におそらく戻らないと思う。南中学校や北中学校の人も言っていたように、今の新居浜市は中学生から20代前半くらいの方が楽しめる施設が少ないと思う。公園やイオンモールなどの遊ぶ場所があるのは確かだが、もっと遊ぶ場所があるほうが中高生も楽しむことができると思う。例えば、体を動かすことができる大型の屋内スポーツ施設があれば、日頃は遊び場として活用することができる。そして、地震や豪雨などの災害時には地域の人が避難所としても利用することができる。特に南海トラフ地震がいつ起こるか分からないからこそ、災害に対する意識を高めていかないといけないと思う。新居浜市を知った時に、ここに住みたいと思うまちづくりを行いつつ、誰もが楽しくそして安全に暮らすことができる町にしていくことが必要だと思う。

●山本議員

私たちが今から新居浜市でやっていけないといけないような考えを言っていたら、感謝する。言われたように新居浜市には遊ぶ場所が非常に少ないが、今、清掃センターの南あたりの広大な土地で総合運動公園の計画を上げているが、市長も変わったためどうなるかは分からないが、議会ではそういう方向で取り組みたいと思う。そういう施設も含めて具体的にどのような施設、このようなものをつくってほしいというのがあれば教えてほしい。

○帆谷さん（中萩中学校生徒会長）

若者が遊べる施設と言ったが、高齢者も少し体を動かしたりできるような、共有施設のようなものが新居浜市に欲しいと思っている。

○河野さん（大生院中学校生徒会副会長）

私たちは新型コロナウイルスの流行で、人と接する機会が制限される期間が長かった。また、マスク生活で人の表情が見えず、コミュニケーションが取りづらく感じるが多々あった。そのため、今私たちに友だちや先生方と接する中でコミュニケーションを取りながら何か一つのことに向かって協力し、それを成し遂げることが必要だと考える。

●野田議員

ここまでに萩尾さん、中路さん、帆谷さんが言っていたような若い人が遊べる場所が欲しいというのは多分ここに来ている中学生のみんなが思っていることかと思うが、例えば10代、20代の人たちが欲しいと思うことと、私のような30代、40代、もっと年齢が上の方が欲しいと思うものは多分それぞれ違うと思うため、何をしても正解で、逆に言うと何をしても失敗、何をしてもマルで何をしてもバツだと思う。誰かにとっては必要だが、誰かにとっては必要じゃないと思う。それでは何が大切なのか考えると、何のためにするのかという目的や思いがすごく大事だと思い、私は日々人と接する時に気をつけながらお話しさせてもらっている。私自身もコミュニケーションの取り方はすごく迷うことが多いため、どのような時にコミュニケーションを取りづらいつと感じるかということと、コミュニケーションを取る時に気を

つけていることや工夫などがあれば教えてほしい。

○河野さん（大生院中学校生徒会副会長）

他学年と交流する時に差を感じるため、そこを埋めていければいいなと感じている。そして、私はコミュニケーションを取る時に笑顔を大切にしている。

●野田議員

中学生だと1歳、1学年ぐらいの年齢差でも、きっと大きいのだと思う。そういう環境や状況や思いなどを埋めていく努力はすごく必要だと改めて思った。そして、笑顔で頑張ろうと思う。

○近藤さん（角野中学校生徒会長）

私は南海トラフ巨大地震への対策が新居浜市に必要なと思う。新居浜市は主に工業で栄えており、工場が沿岸部に集まっている。しかし、南海トラフ巨大地震が発生し、津波が来てしまうとその工場に何が起きるか分からない。大切なのは市民の命である。働く人の避難経路の確認はされていると思うが、その周りに住む人たちはとても不安だと思う。工場の危険性や津波が来た時にどうするべきかを知らせることが大切ではないかと思う。

●田窪議員（副委員長）

南海トラフ巨大地震発生確率も80%ということで本当に怖い。私も66年間新居浜で生きてきたが、津波の経験はない。新居浜は住友の発祥地ということで沿岸部に住友の企業群があったり、東港では会社があったり、本当に危険なタンクが爆発したらどうなるのかといった危険性もあるが、住友の各企業では自主防災組織を持っており、マニュアルも持っている。そしてどの程度の地震の揺れでどれ程の津波が

来ると言うことが瞬時に分かれば、各企業の方で機械の操業を停止し、避難に入ると言うようなマニュアルも各工場、各企業で設定されていると思う。発災時に、避難準備、避難行動が始まった時に、自治会の自主防災組織などとタイアップ、行政がいかにして関与しながら、うまく避難所までたどり着けるかというような、ハザードマップなど、さまざまな手段で行政も発信はしているが、その中で、皆さん自身が発災時に自宅にいたらいいのか、どこに避難したらいいのかということは理解しているのか。

○近藤さん（角野中学校生徒会長）

実際に角野中学校でも事前の打ち合わせなしでの避難訓練を行っているが、それは授業中のことであるため、家でのことについては、私たちは家族で話し合うように言われている。

○岡部さん（川東中学校生徒会長）

私は公共交通機関の改善が必要だと思う。今は高齢者が増え、運転できなくなった人や体が不自由で運転できない人たちがいるため、例えばバスの便を増やしたり、タクシーを増やしたりするべきだと思う。私自身が感じることだが、よく高齢者が信号無視をして事故に巻き込まれそうになることがある。地域によって違うかもしれないが、私はそこを変えるべきだと思う。そのためにも、そのようなサービス業の給料を上げるべきだと思う。

●近藤議員

新居浜市にとって重要な課題だと思っている。新居浜市では地域公共交通計画を昨年3月に策定し、その活性化協議会でJRやデマンドタクシーとの接続を考えた

ような循環バスの導入も検討している。私も参加している都市基盤整備促進特別委員会で調査しているが、近々その活性化協議会から検討結果の報告を受けるため、それを踏まえて委員として提案していきたいと思っている。また、タクシーの運転手等の給料が非常に安く、運転手不足となっていることについても、国や市の補助金で補助できることがあるのではないかとということで、行政の方にも提言していきたいと思っている。

○谷野宮さん（別子中学校生徒会長）

私たち別子中学生は別子山地域で学校生活を送る中で、過疎化を身近に感じている。そのため、現状を維持するだけで別子山地域を含めた新居浜市が存続していけるのかが心配である。改善していくためにも新居浜市外からの人材確保に力を入れなければならないと思っている。例えば、観光客などの一時的に関わる交流人口の拡大をすることで、地域の活性化を図ることができるのではないかと考えている。さらに、交流人口から定住人口へとつなげる取組も必要だと考えている。他にもマイントピア別子などの施設を充実させることで市の魅力を高めていけると考えている。その魅力を都市部から来る人たちをターゲットとした魅力をアピールするPR活動なども行っていけると、より人材確保に近づけるのではないかと考える。

●田窪議員（副委員長）

山間地域での集客や別子山地域での雇用の創出、そういったことに関しては私も議会で一般質問をさせていただいている。別子中学校の皆さんが野菜を作り、マイントピア別子で販売することなどで別子山

の魅力発信をしていることはよく理解している。新居浜市が策定している新居浜市過疎地域持続的発展計画の中で別子木材センターの建屋を修理したり、機械の更新をしたり、また、アマゴの養殖やジビエの加工場を作るとか、グランピングであるような宿泊施設を建てるなどといった計画もある。ただし2年程前に別子山の協力隊のいろんな問題が発生して行政はその計画を止めている状態である。そういうことがあっても私は進めたい、推進していきたいと考えている。別子山でこういうものがあればもっと集客できるというようなものがあれば教えてほしい。

○谷野宮さん（別子中学校生徒会長）

まず魅力を知ってもらうことが大切だと思うため、宿泊施設をつくるなどといった一時的に魅力を知ってもらえる機会をつくることによってその魅力を知って移住を決意する人もいると思うため、そのような施設を充実させることが必要ではないかと考える。

#### 感想

●白川議員（委員長）

新居浜市の未来についてさまざまな視点や考え方があることが分かった。本日は限られた時間のため、今日皆さんがお話したことも本当は深掘りしていきたいが、時間がないため、今日の内容をここだけで終わらせず、新居浜市の未来のためにつなげるためにも、本日皆さんが発言した内容を後日市長へ報告提言書として提出したいと思うが、御異議ないか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●白川議員（委員長）

御異議なしと認める。それでは後日報告

提言書を作成し、市長へ提出し、その後皆さんへも共有させていただく。それでは最後に、本日の感想を発表してもらいたいと思う。

○近藤さん（東中学校生徒会長）

今日はすごく緊張したが、楽しくやれて良かった。

○伊藤さん（東中学校保体委員長）

市議会議員さんの話を聞いていると、いろいろな意見があるのだと思った。本当に貴重な経験になった。

○大石さん（西中学校書記兼文化委員長）

新居浜市に一番必要なのは地域への興味関心だと考えていたが、自分の考えていたことの盲点に気づくことができ、興味深いと思った。



○三ツ井さん（西中学校福祉委員長）

普段味わえないような、このような空間でさまざまな意見交換ができたことがすごく嬉しく、楽しく思った。

○萩尾さん（南中学校生徒会長）

今日は同じ中学生でも気づけなかったことに気づくことができ、新たな課題やこれからしていかなければならないことに気づくことができたため、本当に有意義な時間となった。

○小野さん（南中学校図書委員長）

この貴重な時間で未来の新居浜につい

て考えることができた。

○水田さん（北中学校生徒会長）

私たちが住む新居浜市のことをもっと考えることができた。他校の生徒会役員の皆さんや市議会議員の皆さんの話を聞いてもっと新居浜について知りたいと感じた。

○中路さん（北中学校生徒会副会長）

今日は自分の意見を皆さんに共有し、市議会議員の方々とも意見を交換できて、とても面白い会だった。議場に入ることも普段はないため、いい経験になったと思う。

○戎さん（泉川中学校生徒会長）

この一生に一度あるかないかの貴重な体験で、他の中学校の皆様と意見を交換し、私たちや新居浜市の未来について考えることができた。

○日野さん（泉川中学校生徒会副会長）

今日は市議会議員の方々や新居浜市内の中学生の方々とともに素晴らしい意見交換ができてよかった。このような経験は自分にとっても新居浜市にとっても、とてもいいものになると感じている。貴重な場所でこの貴重な体験をさせていただいたことに本当に感謝している。

○田中さん（船木中学校生徒会長）

緊張したが、すごく面白い話が聞けて楽しい会になったと思う。これからの新居浜市がすごく楽しみだと思った。

○高橋さん（船木中学校生徒会副会長）

今回は新居浜の市議会議員の皆様や新居浜の全校の生徒会役員を交えて新居浜の未来について話し合うことができ、とても勉強になった。

○帆谷さん（中萩中学校生徒会長）

今日はもちろん緊張もしたが、他校の生

徒会役員や市議会議員の皆様の意見、考えを聞き、新居浜市の未来について自分もさらに考えていきたいと思った。

○曾我部さん（中萩中学校生徒会副会長）

今日は市議会議員の皆さんや減多に関わることができない市内の生徒会役員の皆さんと新居浜をよりよくするために意見を交わすことができ、とても有意義な時間を過ごせた。私にとってもこの経験が人生のプラスになると思うため、とてもいい経験をさせてもらったと思う。

○加藤さん（大生院中学校生徒会長）

私は最初すごく緊張していたが、意見交換をしていく中で笑顔がだんだん増え、最後にはすごく温かい空気感の中で市議会議員の皆さんとお話することができてよかった。すごくいい経験になったと思う。

○河野さん（大生院中学校生徒会副会長）

今日はこのような貴重な場所で市議会議員の方々や意見交換できて、とてもよかったと思う。

○近藤さん（角野中学校生徒会長）

今日は私たちの意見に議員さんたちがとても丁寧に答えてくださり、貴重な経験になった。

○吉田さん（角野中学校生徒会副会長）

自分の意見をきちんと持ち、その意見を共有することの大切さを学んだ。この貴重



な体験を普段の生活に生かしていく。

○岡部さん（川東中学校生徒会長）

他校の人たちも言ったように、私も議員さんたちと意見を交えながら、新居浜をよりよくしていきたいと思った。

○浮田さん（川東中学校生徒会副会長）

まず、このような貴重な経験ができる機会を設けていただき、感謝する。市議会議員の皆さんが日々新居浜のために試行錯誤されていることがよく分かった。新居浜をよりよくしていくためには新居浜全体で団結していくことが大事だと思うため、これからも今日得たこと、学んだことをしっかり自分のプラスにし、さらに、新居浜全体の生徒会役員さんとも交流できたらいいなと思った。

○谷野宮さん（別子中学校生徒会長）

今回の意見交換会を通じて、新居浜市の未来について考える貴重な体験を得ることができた。地域社会での協力が大切だということなども再認識させてもらった。今日の貴重な体験を今後の活動にもつなげていきたいと思う。

○相原さん（別子中学校生徒会副会長）

今日は初めての空気感や、ほかの中学校の生徒会役員の方々や市議会議員の方々とお話するのはすごく緊張したが、それでも自分たちがこれから住んでいく新居



浜市の問題について意見を交わせたことはすごくうれしく、これからの新居浜の未来にすごくわくわくしている。

●田窪議員（副委員長）

今回中学生の皆さんから事前に市議会議員に聞きたいこととして、27の質問をいただいた。私もその回答を考える中で、議員になった初心の気持ちなどを考えさせていただいた。本当にいい機会をいただき、感謝する。

●近藤議員

若い中学生の皆さんと話し合いをする機会を持てて良かったと思う。これから皆さんは新居浜を背負っていくような世代になるわけだが、できれば新居浜にとどまっていたか、一度新居浜市を出ても、帰ってきて、新居浜市の魅力をよりよくして、市外からも新居浜に住みたいと思えるような新居浜市をつかっていっていただきたい。

●伊藤優子議員

私が議員になった頃、女性議員は政党から出馬している議員がほとんどで、女性議員は議員数の中で1割程度しかいなかった。24年経った現在では3割近くになっている。今日参加してくださった生徒会役員の方々には女子が半数を占めている。私が中学生の時はこのようなことはなかった。また、今日の生徒会の皆様のすばらしい意見や新居浜市のことを考えている意見を聞いて、新居浜市は大丈夫だと感じた。次は皆さんが成人して市議会議員、県議会議員、市長を目指してほしいと思う。今日は皆様のすばらしい意見を聞いて本当にためになった。

●藤原議員

私の方からは2つあり、まず1つ目は反省を今日させていただいた。今日皆さんがおそらく生まれて初めて議場に入ったときの顔を見ると、本当に緊張して入ってきた様子うかがえた。私も平成15年に初めて議員になり、この議場に入る際に本当に緊張して入ったのが22年前で、議員を22年務めると当たり前のように入って、当たり前のように出ていく。今日皆さんの姿を見て初心に帰ることが本当に大事だということが分った。2つ目は、お願いであるが、新居浜には帰らないと思うということ saying it in the past but I also graduated from high school and went to university, and at that time I thought I would probably never return to Niigata. It has been ten years since I last sat here. In my middle school days, it was about 50 years ago, but I never really thought about it. Today, hearing from you about the future of Niigata City, I heard from Councilor Iwafusa that he wanted to be the mayor or a city councilor. There is only one person who can be the mayor, but there are 26 people on the city council, so from your age, you should have a purpose and a problem意识. So, please, as our future generation, please return to this council chamber again.

#### ●山本議員

今日は生徒の皆さんのお話を聞いて、先ほども話があったように、これだけの立派な方がいるということは新居浜市、これからますます指導者の皆さんのご指導を得て、立派な子供たちが育っていくだろうという気がした。今日は堅苦しい議会の場で、皆さんからすればこういう場所に入った

ことはないので一つの経験だと思うが、私としてはもっとラフな形で皆さんとお話をしたいと思う。今後とも頑張ってください。

#### ●合田議員

皆さんおっしゃっているように、本当に新居浜に帰ってきていただきたいし、多分こういった場を経験して、何年後に、議場に座る方が出てくるのではないかなど思っている。今回は委員会ということで、この内容は先ほど委員長から話があったとおり、委員会として市長また理事者に伝えていくことになる。会の中で遊ぶ場所の話などが出ていたが、ラウンドワンやボーリング場などといったイメージでもあるのだと思うが、そういった施設を踏まえて出ていた意見を読み解くと、365日みんなが使える、また避難所にもなるということで、またコンサートなどもできる、アリーナといったものもイメージできるのかなと思った。ぜひ新居浜には帰ってきていただきたいため、そういったアリーナについて個人的にも訴えていきたいと思う。



#### ●野田議員

今日は学校終わりのお疲れの中来ていただき、感謝する。新居浜市のまちづくりについて興味を持ち、参加したいと思っていただけたら嬉しい。そして、これからも

参加し続けたいと思っていけるような取組を一生懸命大人が率先してできたらいいと思った。一生に一度あるかないかの経験と言っていたが、一生に一度と言わず、是非議員として帰っていただけたら嬉しいと思う。みんなの総意は遊べるところが欲しいということで、私も欲しいと思うため、それは強く強く訴えたいと思う。最近人とお話しするときに私自身笑顔が足りなかったと気づかせていただいたので、にっこり笑いながらいい話ができたらいなと思う。今後も継続的にいろんなお話を聞かせてもらいたいと思った。

#### ●片平議員

中学生の皆さんの意見を聞いて、こんなに考えてくれているのかと思った。人口減少もあり、防災もあり、経済のこともあり、皆さんには実はこんなことも言いたかったということもあるのではないかと思います。もっともっとお話がしたいと思った。また、ほかの中学校の生徒会の人とこういう場で初めて会って意見を聞いてすごく刺激になったという意見もあったが、またそういう場を持って欲しいと学校の方にもお願いしてみたらいいのではないかと思います。市の主人公は市民の皆さんなので、また皆さんの意見をどんどん出してほしい。市民の声で動く新居浜市になればいいと思う。

#### 閉会挨拶

#### ●白川議員（委員長）

今日は皆さん御協力いただき感謝する。私からぜひお伝えしたいのは、今日皆さんのように真剣に新居浜のことを考えて、真面目に人の役に立ちたいと思われているということが、なんとなく今の世の中では格好悪いって言われてみたり、熱苦しいと

言われてみたりというところで、恥ずかしいなと思う人が多いと思う。そうではなく、これだけ真剣に考えて、熱い思いがこういった形で集まり、議員の皆さんもこれだけ熱く新居浜のことを考えているので、先ほど話もあったが、当初は膝を付き合わせて地べたに座ってみんなでわいわいしようかなという計画もしていたが、せつかくの機会なので、あえてこういった堅苦しい形で今回企画をさせていただいた。いろいろ不備もあったとは思いますが、本当に貴重な意見をいただいたので、これを基にしっかりと市長にも届けて、我々も頑張っていきたい。これをきっかけとしてこれから楽しいこともあるでしょうし、みんなでわいわいしながら話をする場所をつくっていききたいと思うため、これからも新居浜市議会をよろしく願います。それでは、以上をもって新居浜市議会企画教育委員会市民との意見交換会を閉会する。

